

第5章 平成25年度（平成24年度対象）
点検・評価結果

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																										
5	学校・家庭・地域の連携の推進	<p>地域ぐるみで学校運営を支援する体制の構築</p> <p>○学校サポーターズクラブ設置市町村数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>数値</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td></tr> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	数値	13	13	13	13	13	14	<p>事業目的 地域による学校支援をさらに促進するため、本県ならではの取組みとして学校サポーターズクラブ認証制度を創設し、活動の主体となる地域の各種住民団体の連合体の成立をめざし、「地域ぐるみの学校支援事業(学校支援地域本部)」の展開と併せ、地域ぐるみの学校支援体制づくりを推進する。</p> <p>取組状況 【小学校区又は中学校区】の婦人会、青年団、自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の地域団体を連合体として、地域で学校支援に取り組み組織に「学校サポーターズクラブ」として認定証とフラッグを授与した。 平成24年度は、14市町村46クラブを認証している。</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>達成率</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>93.3%</td><td>93.3%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>15</td><td>15</td></tr> </table> <p>○【平成24年度の取組】14市町村46のクラブを認証した。学校地域支援本部と併せて、地域による学校支援活動の広がりをみせた。</p> <p>○【2年間のまとめ】認証クラブにおいて、これまで団体・グループが培ってきたノウハウを活かした地域の学校に対する学校支援活動の充実及び多様化・継続化を図るため、学校支援活動の効果的な方法等の情報提供・支援が必要である。</p> <p>今後の取組及び方向性 地域による学校応援団として施策を同じくする「地域ぐるみの学校支援事業(学校支援地域本部)」の展開と併せ、「学校サポーターズクラブ」制度のさらなる広報・啓発活動を推進し、地域ぐるみの学校支援体制づくりを整備し、地域教育力の向上を図る。</p> <p>○【第2期計画】3-2-1「学校の応援団づくり」【学校サポーターズクラブ設置市町村数】</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	—	—	—	—	13	14	達成率	—	—	—	—	93.3%	93.3%	目標値	—	—	—	—	15	15
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24																																							
数値	13	13	13	13	13	14																																							
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24																																							
達成率	—	—	—	—	13	14																																							
達成率	—	—	—	—	93.3%	93.3%																																							
目標値	—	—	—	—	15	15																																							
6	学校・家庭・地域の連携の推進	<p>生涯学習政策課</p> <p>事業名、数値目標実績</p> <p>「放課後子どもプラン」の推進</p> <p>○「放課後子ども教室」実施数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>数値</td><td>39</td><td>55</td><td>55</td><td>50</td><td>48</td><td>48</td></tr> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	数値	39	55	55	50	48	48	<p>事業目的 放課後や週末等に小学校の余剰教室等を活用した「放課後子ども教室」の開設を促進し、すべての子どもを対象とした学習、スポーツ、文化活動や地域住民との交流活動を行うことのできる安全・安心な子どもたちの活動拠点(居場所)づくりを推進する。</p> <p>「放課後子ども教室」を、県内5市(徳島市、鳴門市、小松島市、美馬市、三好市)、9町(石井町、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町、北島町、板野町、つるぎ町、東みよし町)と県立豊学校において、48か所を実施した。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>39</td><td>55</td><td>55</td><td>50</td><td>48</td><td>48</td></tr> <tr><td>達成率</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>60.0%</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>80</td></tr> </table> <p>○【平成24年度の取組】南海トラフの巨大地震を想定し、「放課後の防災・減災対策」をテーマに掲げた安全管理員等研修会や放課後子どもプラン研修会を実施した。実際に地震が起きた際の具体的な行動を考えることで、各教室における安全管理の見直しと関係者の防災意識の高揚につなげることができた。</p> <p>○【5年間のまとめ】全県的な教室の広がりが見られる一方で、児童数の減少による教室の閉鎖や、運営に関わる安全管理員等の確保が課題となっている。</p> <p>また、地域の美観や利用者のニーズにより、「放課後子どもプラン」のうち厚生労働省所管の放課後対策事業である放課後児童健全育成事業を採択する市町村もある。</p> <p>「徳島県学校・家庭・地域の連携による子どもたちの健全育成推進協議会」において、放課後対策事業の円滑な推進のため「放課後子どもプラン」と「地域ぐるみの学校支援事業(学校支援地域本部)」の連携を図ることとした。コーディネーターの兼務や、各事業の取組を組み合わせたことで、地域の実情やニーズに応じた放課後対策を図り、より充実した地域ぐるみの学校支援体制づくりを推進する。</p> <p>○【第2期計画】3-1-1「学校・家庭・地域の連携」【全小学校区での放課後や休日における体験活動等の実施率】</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	39	55	55	50	48	48	達成率	—	—	—	—	—	60.0%	目標値	—	—	—	—	—	80
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24																																							
数値	39	55	55	50	48	48																																							
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24																																							
達成率	39	55	55	50	48	48																																							
達成率	—	—	—	—	—	60.0%																																							
目標値	—	—	—	—	—	80																																							

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
7	学校評価システムの構築の充実 ○「学校関係者評価」実施率 	事業目的 保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体との関係者、接続する学校の教職員その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の補強や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価を行うことで、自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め、相互に連携し、学校運営の改善への協力を促進する。 取組状況 平成23年度間における学校評価の実施状況は文部科学省の調査を実施することで、実施状況や成果、課題等を明らかにした。調査結果は県のホームページに掲載するとともに、市町村教育委員会及び各学校に通知し、充実改善の取組を促した。平成24年度間の学校関係者評価の実施に関して途中経過を調査し、実施状況や課題等を明らかにするとともに、学校関係者評価の充実に向けて、指導・助言を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32.0%</td> <td>58.4%</td> <td>67.8%</td> <td>78.1%</td> <td>96.4%</td> <td>平成25年12月以降判明</td> <td>—</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度間における学校関係者評価の実施に関する途中経過調査によると、学校関係者評価を「実施した」と「実施する予定である」との回答を合わせると100%であった。このことから、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する環境が整いつつあると言える。なお、今後とも、各学校が学校関係者評価を確実に実施することが必要である。 ○【5年間のまとめ】学校関係者評価の実施率は、5年間で32.0%（平成19年度間）から96.4%（平成23年度間）へと上昇した。このことから、自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たることができている環境が徐々に整備されてきた。 今後の取組及び方向性 今後とも、学校評価の実施状況調査を実施し、成果や課題等を市町村教育委員会及び各学校に周知し、充実改善に向けて指導助言を行う。また、各学校が学校関係者評価を確実に実施するとともに、学校評価結果を広く公表する取組を推進する。 ○【第2期計画】3-2-2「とくしまの教育力の活用」【学校評価結果を広く公表している学校の割合】基準値は平成24年度間の75%とし、平成25年度間90%、平成26年度間100%としている。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	32.0%	58.4%	67.8%	78.1%	96.4%	平成25年12月以降判明	—	100%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
32.0%	58.4%	67.8%	78.1%	96.4%	平成25年12月以降判明	—	100%											
8	学校政策課 事業名、数値目標実績 コミュニティ・スクールの推進 ○「コミュニティ・スクール」モデル校数(累計) 	事業目的 保護者や地域住民などから構成される「学校運営協議会」によって、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりすることを通じて、地域の方々の意見を反映させ、「開かれた学校」づくりの場を推進する。 取組状況 平成24年度は、三庄小学校、海南小学校の2校が、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進め、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させるコミュニティ・スクール推進事業の調査研究校として、各町教育委員会と連携して研究を推進した。 また、伊藤利小学校、由岐中学校伊藤利分校と加茂小学校が、コミュニティ・スクールのマネジメント力の強化に関する実践研究を行い、学校と地域を繋ぐコーディネーター機能の位置付け等について研究を推進した。 評価 ○【平成24年度の評価】研究校では、先進校の視察等を通して、教員や保護者等の意識の啓発を図り、学校運営協議会設置に向けた、組織の整理や再構築が計画的に進められている。 ○【5年間のまとめ】5年間で調査研究校は11校増加し、調査研究校では、保護者や地域住民が学校行事や教育活動に参加し、学校について理解を深めたり、学校に対する意見収集したりする機会となった。																
	学校政策課 事業名、数値目標実績 コミュニティ・スクールの推進 ○「コミュニティ・スクール」モデル校数(累計) 	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 保護者や地域住民などから構成される「学校運営協議会」によって、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりすることを通じて、地域の方々の意見を反映させ、「開かれた学校」づくりの場を推進する。 取組状況 平成24年度は、三庄小学校、海南小学校の2校が、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進め、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させるコミュニティ・スクール推進事業の調査研究校として、各町教育委員会と連携して研究を推進した。 また、伊藤利小学校、由岐中学校伊藤利分校と加茂小学校が、コミュニティ・スクールのマネジメント力の強化に関する実践研究を行い、学校と地域を繋ぐコーディネーター機能の位置付け等について研究を推進した。 評価 ○【平成24年度の評価】研究校では、先進校の視察等を通して、教員や保護者等の意識の啓発を図り、学校運営協議会設置に向けた、組織の整理や再構築が計画的に進められている。 ○【5年間のまとめ】5年間で調査研究校は11校増加し、調査研究校では、保護者や地域住民が学校行事や教育活動に参加し、学校について理解を深めたり、学校に対する意見収集したりする機会となった。																

番号	事業名、数値目標実績	事業目的	取組状況	評価	今後の取組及び方向性																
9	総合的な幼児教育の推進 ○預かり保育実施率(公私立) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施率</td> <td>67.0%</td> <td>67.0%</td> <td>81.2%</td> <td>84.6%</td> <td>88.1%</td> <td>87.6%</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	目標値	実施率	67.0%	67.0%	81.2%	84.6%	88.1%	87.6%	84%	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 「徳島県幼児教育振興アクションプラン」(平成21年度～平成25年度)を策定し、園・学校・地域等が連携し、本プランを推進することにより、幼児の健やかな心身の発達に資する。 「徳島県幼児教育振興アクションプラン推進事業」を実施しており、その重点施策の一つとして、預かり保育の充実に取り組み、各種研修会を通じて県内の幼稚園に普及を行った。 また、「預かり保育実態調査」を実施し、各市町における実施状況の把握を行い、預かり保育の質的向上を図るため、各市町に対し、指導体制や条件整備についての指導・助言を行った。	取組状況 「徳島県幼児教育振興アクションプラン推進事業」を実施しており、その重点施策の一つとして、預かり保育の充実に取り組み、各種研修会を通じて県内の幼稚園に普及を行った。 また、「預かり保育実態調査」を実施し、各市町における実施状況の把握を行い、預かり保育の質的向上を図るため、各市町に対し、指導体制や条件整備についての指導・助言を行った。	評価 ○【平成24年度の評価】「預かり保育実態調査」を実施し、各市町の実施状況を把握し、幼稚園教育推進連絡協議会において、今年度の取組と成果及び、今後の「預かり保育のあり方」について協議した。 ○【5年間のまとめ】「徳島県幼児教育振興アクションプラン」の施策の基本方針「充実した幼稚園教育の提供」の基に、各園での状況について、調査を行い、その状況を市町村教育委員会及び園長会等の機会に伝え、預かり保育の充実の推進を図った。	今後の取組及び方向性 引き続き、「預かり保育実態調査」を実施し、各市町における実施状況の把握を行うとともに、地域や保護者のニーズに応じた預かり保育がより一層推進されるよう、各市町に対し、指導体制や条件整備についての指導・助言を行っていく。 ○【第2期計画】3-3-2「幼児期の成長を支える取組の推進」【保育記録等の活用による指導計画・保育内容の評価・改善】
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	目標値														
実施率	67.0%	67.0%	81.2%	84.6%	88.1%	87.6%	84%														
10	事業名、数値目標実績 キャリア教育の推進 ○「キャリア教育の手引き(仮称)」の作成・推進	事業目的 児童生徒の社会的・職業的自立に向けた能力の育成について、キャリア教育の必要性や在り方について理解を深め、今後の本県におけるキャリア教育の推進を図る。	取組状況 キャリア教育の必要性や実践の手順、小中高の取組等を紹介した「キャリア教育の推進に向けて」を作成し、小・中・高校及び特別支援学校に配付した。 また、文部科学省主催の「キャリア教育推進アクションプラン」において、高校と特別支援学校の校長及びキャリア教育推進の中核となる教員を対象に講演やワークショップを開催した。	評価 ○【平成24年度の評価】県が作成した冊子「キャリア教育の推進に向けて」を小中学校、高校、特別支援学校に配布し、キャリア教育の理解に向けて活用してもらったことにも、文部科学省主催の「キャリア教育推進アクションプラン」を開催し、校長等の管理職へのキャリア教育の理解に向けた研修、さらには、担当者への体系的な研修を実施した。 ○【2年間のまとめ】冊子「キャリア教育の推進に向けて」の作成・配付、さらには文部科学省主催の「キャリア教育推進アクションプラン」の開催により、キャリア教育への理解が深まり、高校におけるインターンシップや中学校における職場体験の実施率が向上した。	今後の取組及び方向性 徳島県教育振興計画(第2期)に沿って、「キャリア教育推進協議会(仮称)」を設置し、本県における児童生徒の実態や特色を踏まえ、本県がめざすキャリア教育の方針や育成すべき能力、発達段階に応じた教育内容等を示したキャリア教育推進計画を策定する。また、職場体験やインターンシップのさらなる充実を図る。 ○【第2期計画】1-1-1「キャリア教育の推進」【キャリア教育推進計画の策定・推進】																

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
11	事業名、数値目標実績 キャリア教育の推進 ○高校におけるインターンシップの実施率 	事業目的 将来進む可能性のある職業に関連する活動を試行的に体験することを通して社会人・職業人への移行準備に役立て、学ぶことの意義や働くことへの意義を理解し、生きることの尊厳を実感させるとともに、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲などを培う。 インタビュの充実に向けては、各校独自にインターンシップに取り組んでいる。また、県商工労働部と連携した2週間の長期インターンシップである「産業人材確保インターンシップ事業」、県立図書館等の県立施設を活用した「県立施設におけるインターンシップ促進事業」や「地域連携産業人材育成確保事業」に取り組んでいる。さらに普通科高校のインターンシップ実施率が低いことから、「高等学校普通科キャリア教育推進事業」を実施している。 取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>65.9%</td> <td>77.3%</td> <td>82.9%</td> <td>121.9%</td> <td>68%</td> </tr> </tbody> </table> H24見直し 評価 ○【平成24年度の評価】インターンシップに関する県の事業を実施するとともに各高校へ実施依頼を行った。また、文部科学省主催の「キャリア教育推進アセスメント」を開催し校長等の管理職へのキャリア教育の理解に向けた研修、さらには、担当者へワークショップを実施した。 ○【5年間のまとめ】インターンシップに関する県の事業を実施するとともに、県教育委員会が小冊子「キャリア教育の推進に向けて」を作成し、小中高校及び特別支援学校に配布するとともに文部科学省主催の「キャリア教育アセスメントキャリアバン」を開催しインターンシップの推進に努め実施率も向上した。 今後の取組及び方向性 徳島県教育振興計画(第2期)に沿って、インターンシップ等の体験的な活動を受け入れる企業等の確保に向けて、「キャリア教育推進協議会(仮称)」を設置し、幅広い異年齢者との交流や就労におけるミスマッチの未然防止の観点から、学校側と企業側のマッチングの仕組みを構築するなど、産業界や関係機関と積極的に連携を図る。 ○【第2期計画】1-1-2「キャリア教育の推進」【公立高校におけるインターンシップの実施率】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	65.9%	77.3%	82.9%	121.9%	68%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
—	—	—	65.9%	77.3%	82.9%	121.9%	68%											
12	事業名、数値目標実績 キャリア教育の推進 ○中学校における職場体験の実施率 	事業目的 生徒が直接働く人と接することにより、また、実際の知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことへの意義を理解し、生きることの尊厳を実感させるとともに、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲などを培う。 中学校の職場体験の充実に向け、国の事業である「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」に阿南市、美馬市の2市において取組み、「受入先企業バンク」の構築、小学校と中学校の連携の在り方を研究するなど、職場体験が効果的・効率的に実施できるよう取り組んだ。 取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.0%</td> <td>82.0%</td> <td>83.1%</td> <td>95.4%</td> <td>96.5%</td> <td>98.8%</td> <td>100.8%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> H24見直し 評価 ○【平成24年度の評価】国の事業である「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」において、これまでの成果の普及を図ることにより、職場体験実施率は向上した。 ○【5年間のまとめ】国の事業である「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」に平成21年度から平成23年度の3年間に取組み、受入先の確保や効果的な職場体験について研究し、その成果をリーフレットにまとめ県内の小・中・高に配付し、職場体験の普及を図った。その結果、職場体験実施率は向上した。 今後の取組及び方向性 各市町村教育委員会を通じて各小中学校にキャリア教育のさらなる推進を求めいく。 徳島県教育振興計画(第2期)に沿って、職場体験等の体験的な活動を受け入れる企業等の確保に向けて、「キャリア教育推進協議会(仮称)」を設置し、或職前の段階から、幅広い異年齢者との交流や就労におけるミスマッチの未然防止の観点から、学校側と企業側のマッチングの仕組みを構築するなど、産業界や関係機関と積極的に連携を図る。 ○【第2期計画】1-1-2「キャリア教育の推進」【公立中学校における職場体験の実施率】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	77.0%	82.0%	83.1%	95.4%	96.5%	98.8%	100.8%	98%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
77.0%	82.0%	83.1%	95.4%	96.5%	98.8%	100.8%	98%											

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
13	学校・家庭・地域の連携の推進	教育機会均等の推進 ○公立高等学校の授業料不徴収等	<p>家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会を作るため、公立高等学校等の授業料を徴収しないこととすこととともに、公立高等学校以外の高等学校等の生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給することにより、家庭の教育費負担の軽減を図り、教育の機会均等に寄与する。</p> <p>公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する法律が制定され、平成22年度から、特別の事由がある場合を除き、原則として公立高等学校の授業料等を徴収しないこととされたことに伴い、本県においても、関係する条例を改正し、平成22年度から、原則として県立高等学校の生徒から授業料等を徴収しないこととした。</p> <p>私立高等学校等の生徒に対し、授業料について一定額(年額118,800円(低所得世帯の生徒については、所得に応じた178,200円~237,600円))を助成することにより、教育費負担の軽減を図った。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の評価】教育に係る家庭の教育費の負担を軽減し、教育の機会均等を図ることができた。</p> <p>○【3年間のまとめ】本制度は、保護者の経済的負担の軽減と教育の機会均等に寄与している。</p> <p>私立高等学校等における教育に係る経済的負担を軽減することにより、生徒の就学機会の確保が図られた。</p> <p>国において公立高等学校の授業料不徴収等の制度見直しが検討されていることから、国の動向を注視していく。</p> <p>引き続き、私立高等学校等への就学機会を確保するため、支援を行う。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	推進	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	推進	推進	推進	—	推進												
		学校政策課 総務課	評価 今後の取組及び方向性																

基本方針2 未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的	取組状況	評価	今後の取組及び方向性																														
14	「確かな学力」の育成	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「徳島県学校改善支援プラン」の推進</p> <p>○各学校が作成する「学力・学習状況」改善プランにおける数値目標の達成状況</p> <table border="1"> <caption>達成率推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>69.6%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>70.3%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>85.8%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>83.6%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>84.7%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	達成率	H20	69.6%	H21	70.3%	H22	85.8%	H23	83.6%	H24	84.7%	<p>事業目的</p> <p>各学校が、自校のプランに基づき、学力向上等への取組を推進し、年度末に目標の達成状況を評価し、今後の改善策を検討するというPDCAのマネジメントを実施することにより、主体的に教育活動の改善を推進する。</p>	<p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分できた・概ねできた学校の割合</td> <td>-</td> <td>69.6%</td> <td>70.3%</td> <td>85.8%</td> <td>83.6%</td> <td>84.7%</td> <td>98.6%</td> <td>十分できた・概ねできた学校の割合 87%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	十分できた・概ねできた学校の割合	-	69.6%	70.3%	85.8%	83.6%	84.7%	98.6%	十分できた・概ねできた学校の割合 87%	<p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】数値としては大きな伸びとはならなかったが、各校の具体的な目標と取組により児童生徒の実態に即して計画され、評価及び改善が進められている。</p> <p>○【5年間のまとめ】各学校が自校のプランに基づき、主体的に教育活動の改善を進め、学校運営にPDCAのマネジメントサイクルの視点が生かされ学力向上への取組が進んだ。平成22年度に数値目標の80%を達成したため、平成23年度に数値目標を87%に引き上げた。各校は課題改善が進むに伴い目標値を高く設定していることなどにより、「十分できた・概ねできた」学校の割合は伸びていないが、各校の取組は子どもの実態に即したより具体的なものとなっている。</p>	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>平成25年度からは「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」に基づき、各学校においては「学力向上実行プラン」により学力向上を目指した取組を展開する。「学力向上実行プラン」では、児童生徒の現状把握、具体的な目標や具体的な方策の設定等を学力の重要な3つの要素に整理するなど、従前の様式よりも目指す子どもの姿の実現に向けた取組がより具体化し組織的に行われるよう配慮しており、プランに沿った取組の推進によりPDCAサイクルの更なる充実を目指す。</p>
年度	達成率																																			
H20	69.6%																																			
H21	70.3%																																			
H22	85.8%																																			
H23	83.6%																																			
H24	84.7%																																			
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
十分できた・概ねできた学校の割合	-	69.6%	70.3%	85.8%	83.6%	84.7%	98.6%	十分できた・概ねできた学校の割合 87%																												
15	「確かな学力」の育成	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「徳島県学校改善支援プラン」の推進</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率が全国平均正答率を上回った教科数</p>	<p>事業目的</p> <p>全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に關する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。</p>	<p>取組状況</p> <p>平成24年度は教科に理科が追加され、抽出調査として本県小学校の41.6%、中学校の70.9%が国により抽出され、4月17日に実施した後、8月8日に結果の公表があり、県教委、各市町村教委及び調査実施校に結果が送付された。</p> <p>県教委では、全国的な状況について分析を行い、8月下旬に各市町村教委を訪問し、県全体の分析結果を示すとともに、各市町村の状況等を伺い、教育施策や学力向上・学習状況改善等に関する意見交換を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8項目中4項目上回った回数</td> <td>-</td> <td>8項目中4項目上回った回数</td> <td>8項目中4項目上回った回数</td> <td>8項目中5項目上回った回数</td> <td>震災のため全国調査なし</td> <td>全国平均正答率を100として99.2</td> <td>99.2%</td> <td>全国平均正答率を上回る</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	8項目中4項目上回った回数	-	8項目中4項目上回った回数	8項目中4項目上回った回数	8項目中5項目上回った回数	震災のため全国調査なし	全国平均正答率を100として99.2	99.2%	全国平均正答率を上回る	<p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】平成22年度と同様に抽出調査で実施され、漢字の読み書きや計算問題の多くが正答率で全国平均を上回ったが、全ての教科で、自分の考えを書いたり、理由や根拠を示して説明したりすることに課題がある。</p> <p>○【5年間のまとめ】児童生徒質問紙の随年変化における考察においては、基本的な生活習慣や家庭での学習状況など、これまで課題としていた事項に改善の傾向が伺える。主として知識に関する学習内容の定着については概ね良好であるが、知識や技能を活用する力をみる問題については課題が残されており、活用する力を育成するための取組をなお一層充実させる必要がある。</p>	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>本県児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の習得をより確かなものとするとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を一層推進するため、市町村教委と連携しながら「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」に基づく学力向上に関する取組の充実を図る。</p>												
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
8項目中4項目上回った回数	-	8項目中4項目上回った回数	8項目中4項目上回った回数	8項目中5項目上回った回数	震災のため全国調査なし	全国平均正答率を100として99.2	99.2%	全国平均正答率を上回る																												

番号	16	<p>「確かな学力」の育成</p>	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「徳島県学校改善支援プラン」の推進</p> <p>○授業以外で1日30分以上勉強する児童生徒の割合</p>	<p>事業目的</p> <p>学校における様々な学力向上の取組推進に加え、家庭における児童生徒の学習習慣の定着させたり学習内容を充実させたりすることにより、一人ひとりの学習に対する意欲の向上や学習習慣の確立を図る。</p>	<p>取組状況</p> <p>「家庭学習の手引」の優れた事例を県立総合教育センターホームページに掲載したり、研修会において作成のポイントを指導したりなど、各学校における「家庭学習の手引」の作成を支援し、児童生徒の家庭学習習慣の充実に取り組んだ。</p> <p>徳島県学力スナップアッププロジェクトの意識等調査の1項目として、小学校5年生と中学校2年生を対象に実施調査を実施した結果、平成23年度と比較し小学校5年生では割合に変動はなく、中学校2年生では0.6ポイント増加した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>81.8</td> <td>82.2</td> <td>83.4</td> <td>85.3</td> <td>84.9</td> <td>84.9</td> <td>小5 97.8%</td> <td>小5 86.8%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>83.2</td> <td>81.5</td> <td>84.2</td> <td>86.5</td> <td>86.6</td> <td>87.2</td> <td>中2 98.2%</td> <td>中2 88.2%</td> </tr> </tbody> </table>		H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	小5	81.8	82.2	83.4	85.3	84.9	84.9	小5 97.8%	小5 86.8%	中2	83.2	81.5	84.2	86.5	86.6	87.2	中2 98.2%	中2 88.2%	<p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】各種の研修会等を通じて家庭学習の充実に向けた取組の推進を図った。小学5年生では数値として昨年度と同じであったが、中学生では数値の伸びがみられた。</p> <p>○【5年間のまとめ】家庭学習習慣の確立に向けた指導・助言を受け、各学校が「家庭学習の手引」を作成し、活用を図るなどして、児童生徒の家庭学習習慣の充実に向けた取組が推進されてきた。なお一層継続的に「家庭学習の手引」の内容を見直すとともに、保護者との連携を図りつつ、家庭における学習習慣をさらに確立させていく必要がある。</p>	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>各学校の「学力向上実行プラン」において、児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度の育成」に関する現状把握、目標設定、具体的方策の計画等が適切になされ、各学校が自校の「家庭学習の手引」の改善・活用を一層図るなどの目標達成に向け取組を研修会等で支援し、児童生徒の家庭学習習慣の確立を図り、定着化を推進する。</p>	<p>事業目的</p> <p>全国的に家庭における読書離れが指摘されている中、学校図書館活動等を活性化し、貸出冊数を増加させるなど学校による家庭読書につながる取組を充実させ、児童生徒が家庭や図書館で本を読む習慣を定着させる。</p>	<p>取組状況</p> <p>学校図書館の活性化を通じた読書週回づくりの取組として「読書の生活化プロジェクトⅢ」を実施するとともに、徳島県学力スナップアッププロジェクト中の意識等調査の1項目として、小学校5年生、中学校2年生を対象に実施調査を実施した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>70.2</td> <td>70.1</td> <td>66.0</td> <td>66.9</td> <td>70.1</td> <td>70.1</td> <td>小5 90.7%</td> <td>小5 75.2%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>60.6</td> <td>58.1</td> <td>55.5</td> <td>55.8</td> <td>58.1</td> <td>58.1</td> <td>中2 83.6%</td> <td>中2 65.6%</td> </tr> </tbody> </table>		H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	小5	70.2	70.1	66.0	66.9	70.1	70.1	小5 90.7%	小5 75.2%	中2	60.6	58.1	55.5	55.8	58.1	58.1	中2 83.6%	中2 65.6%	<p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】多くの学校において、お薦めブックリストの作成や朝の一斉読書など学校をあげての取組が行われ、読書活動の推進が図られている。</p> <p>○【5年間のまとめ】小学生に比べ、中学生の読書活動の割合がやや低いため、読書の生活化に向けた取組を深め、さらに読書活動を行っていく必要がある。</p> <p>子どもたちの身近に読みたい本がある環境づくりを推進するため、各学校の図書館がより一層活用されるように図書館活用機会を拡大していく。また「読書の生活化プロジェクトⅢ」を実施し、毎月23日を「家庭読書の日」、その週を「家庭読書推進週間」として新聞を含む家庭読書につながる取組を実施する。</p> <p>○【第2期計画】2-1-1「学力向上策の推進」【ふだん1日10分以上読書をする児童生徒の割合】</p>	<p>今後の取組及び方向性</p>
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																																											
小5	81.8	82.2	83.4	85.3	84.9	84.9	小5 97.8%	小5 86.8%																																																											
中2	83.2	81.5	84.2	86.5	86.6	87.2	中2 98.2%	中2 88.2%																																																											
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																																											
小5	70.2	70.1	66.0	66.9	70.1	70.1	小5 90.7%	小5 75.2%																																																											
中2	60.6	58.1	55.5	55.8	58.1	58.1	中2 83.6%	中2 65.6%																																																											
番号	17	<p>「確かな学力」の育成</p>	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「徳島県学校改善支援プラン」の推進</p> <p>○家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合</p>	<p>事業目的</p> <p>全国的に家庭における読書離れが指摘されている中、学校図書館活動等を活性化し、貸出冊数を増加させるなど学校による家庭読書につながる取組を充実させ、児童生徒が家庭や図書館で本を読む習慣を定着させる。</p>	<p>取組状況</p> <p>学校図書館の活性化を通じた読書週回づくりの取組として「読書の生活化プロジェクトⅢ」を実施するとともに、徳島県学力スナップアッププロジェクト中の意識等調査の1項目として、小学校5年生、中学校2年生を対象に実施調査を実施した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>70.2</td> <td>70.1</td> <td>66.0</td> <td>66.9</td> <td>70.1</td> <td>70.1</td> <td>小5 90.7%</td> <td>小5 75.2%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>60.6</td> <td>58.1</td> <td>55.5</td> <td>55.8</td> <td>58.1</td> <td>58.1</td> <td>中2 83.6%</td> <td>中2 65.6%</td> </tr> </tbody> </table>		H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	小5	70.2	70.1	66.0	66.9	70.1	70.1	小5 90.7%	小5 75.2%	中2	60.6	58.1	55.5	55.8	58.1	58.1	中2 83.6%	中2 65.6%	<p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】多くの学校において、お薦めブックリストの作成や朝の一斉読書など学校をあげての取組が行われ、読書活動の推進が図られている。</p> <p>○【5年間のまとめ】小学生に比べ、中学生の読書活動の割合がやや低いため、読書の生活化に向けた取組を深め、さらに読書活動を行っていく必要がある。</p> <p>子どもたちの身近に読みたい本がある環境づくりを推進するため、各学校の図書館がより一層活用されるように図書館活用機会を拡大していく。また「読書の生活化プロジェクトⅢ」を実施し、毎月23日を「家庭読書の日」、その週を「家庭読書推進週間」として新聞を含む家庭読書につながる取組を実施する。</p> <p>○【第2期計画】2-1-1「学力向上策の推進」【ふだん1日10分以上読書をする児童生徒の割合】</p>	<p>今後の取組及び方向性</p>																																
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																																											
小5	70.2	70.1	66.0	66.9	70.1	70.1	小5 90.7%	小5 75.2%																																																											
中2	60.6	58.1	55.5	55.8	58.1	58.1	中2 83.6%	中2 65.6%																																																											

番号	18	新	「確かな学力」の育成	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>県民の方々とともに学校教育を考える場の設定</p> <p>○考える場の設定</p>	<p>事業目的</p> <p>「学校教育」や「学力向上」をテーマに学校関係者、保護者、県民等が広く徳島の教育について考える機会を設ける。</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p>																																	
取組状況	<table border="1"> <tr> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>達成率</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>開催</td> </tr> <tr> <td colspan="7"></td> <td>達成</td> <td>開催</td> </tr> <tr> <td colspan="7"></td> <td>H24新規</td> <td>開催</td> </tr> </table>			H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	-	-	-	開催								達成	開催								H24新規	開催	<p>平成20年3月に策定した「学校改善支援プラン」に基づく推進事業の成果と課題を検証するため、学識経験者、PTA及び学校関係者、県市町村教育委員会関係者等の委員による「徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議」を設置し、会議の報告書に基づき「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」を策定した。また、県内の幼・小・中・高・特別支援学校のうち、国や県の研究指定校など特色ある教育活動を展開する学校が取組や成果を普及する「あわ(OUR)教育発表会」を開催し、学校関係者と県民等が情報交換できる場を設定した。</p>	<p>○【平成24年度の評価】「徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議」では、学識経験者やPTA及び学校関係者等からの貴重な意見をもとに活発な議論が展開され、県としての目標を明らかにし、各学校がより児童生徒の実態に即した具体的な目標設定を行い組織的な教育活動につなげていくための基本となるプランを策定した。また、あわ(OUR)教育発表会の保護者等の参加については、参加数を増やすために更なる広報や周知等が必要である。</p>
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																
-	-	-	-	-	-	-	開催																																
							達成	開催																															
							H24新規	開催																															
評価	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>「徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議」の報告書を反映し策定したプランの周知・徹底を図る。あわ(OUR)教育発表会については、開催日時や場所、内容等、保護者や県民にとっても身近で参加しやすい場となるよう改善を図る。</p>			<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p>	<p>子どもたち一人ひとりが、将来、社会の一員としてたくましく巣立つことを目指し、徳島県内の各小中学校において、子どもたち自身が知・徳・体を柱とした「阿波っ子すすす(巣立ち)宣言」を作成し、宣言に基づいた様々な取組を推進する。</p>																																		
取組状況	<p>本プロジェクト推進に向けて、学力向上推進員研修会、校長会等において趣旨説明及び昨年度の実績等を説明するなど、円滑な実施に努めた。</p> <p>平成24年12月24日(木)、徳島県立総合教育センターで開催したあわ(OUR)教育発表会において、3校が特色ある取組の実績発表を行った。</p>			<p>取組状況</p> <table border="1"> <tr> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>達成率</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> <tr> <td colspan="7"></td> <td>推進</td> </tr> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	推進	推進	推進	-	推進								推進	<p>○【平成24年度の評価】あわ(OUR)教育発表会における優秀な実践校の発表等を通して、主体的に取り組む児童生徒の姿や取組の成果を広く伝えることができ、参加者の平成25年度取組に向けた意欲の高揚が図られた。</p> <p>○【3年間のまとめ】各学校において、児童会や生徒会の活動を中心に「すすす宣言」の作成や宣言に沿った活動が展開され、児童生徒の自主性・主体性を育み、知・徳・体の調和がとれたたくましく育つことの推進が図られた。</p>										
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																
-	-	-	推進	推進	推進	-	推進																																
							推進																																
評価	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>平成24年度の実績・改善点等を平成25年度「すすす宣言」の計画に生かすとともに、「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」で提示した「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示す県全体で目指す子どもの具体的な姿を参考に、各学校が自校の特色を生かし、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の姿を設定し、その実現につながる活動が展開されるよう推進する。</p>			<p>事業名、数値目標実績</p> <p>たくましい人づくりの推進</p> <p>○知・徳・体の調和のとれた「たくましい人づくり」を進めるため、児童生徒自身が自分たちの生活や学習を振り返り、目標を立てて取り組む「阿波っ子すすす(巣立ち)宣言プロジェクト」を実施</p>	<p>事業目的</p> <p>子どもたち一人ひとりが、将来、社会の一員としてたくましく巣立つことを目指し、徳島県内の各小中学校において、子どもたち自身が知・徳・体を柱とした「阿波っ子すすす(巣立ち)宣言」を作成し、宣言に基づいた様々な取組を推進する。</p>																																		
取組状況	<p>本プロジェクト推進に向けて、学力向上推進員研修会、校長会等において趣旨説明及び昨年度の実績等を説明するなど、円滑な実施に努めた。</p> <p>平成24年12月24日(木)、徳島県立総合教育センターで開催したあわ(OUR)教育発表会において、3校が特色ある取組の実績発表を行った。</p>			<p>取組状況</p> <table border="1"> <tr> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>達成率</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> <tr> <td colspan="7"></td> <td>推進</td> </tr> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	推進	推進	推進	-	推進								推進	<p>○【平成24年度の評価】あわ(OUR)教育発表会における優秀な実践校の発表等を通して、主体的に取り組む児童生徒の姿や取組の成果を広く伝えることができ、参加者の平成25年度取組に向けた意欲の高揚が図られた。</p> <p>○【3年間のまとめ】各学校において、児童会や生徒会の活動を中心に「すすす宣言」の作成や宣言に沿った活動が展開され、児童生徒の自主性・主体性を育み、知・徳・体の調和がとれたたくましく育つことの推進が図られた。</p>										
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																
-	-	-	推進	推進	推進	-	推進																																
							推進																																
評価	<p>今後の取組及び方向性</p> <p>平成24年度の実績・改善点等を平成25年度「すすす宣言」の計画に生かすとともに、「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」で提示した「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示す県全体で目指す子どもの具体的な姿を参考に、各学校が自校の特色を生かし、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の姿を設定し、その実現につながる活動が展開されるよう推進する。</p>			<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「確かな学力」・「豊かな心」・「確かな体」の育成</p>	<p>事業目的</p> <p>子どもたち一人ひとりが、将来、社会の一員としてたくましく巣立つことを目指し、徳島県内の各小中学校において、子どもたち自身が知・徳・体を柱とした「阿波っ子すすす(巣立ち)宣言」を作成し、宣言に基づいた様々な取組を推進する。</p>																																		

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																																
20	<p>たくましい人づくりの推進</p> <p>○高校生に対する分野別の探求的な学習や外部講師の講演など、進路希望に合わせ、各学校・学科に応じた取組を推進</p>	<p>事業目的 自己の個性を理解した上で、主体的に将来の進路を選択・決定できる能力を地域社会との連携の中で育て、人間関係や将来設計、情報活用等の様々な能力を養う。</p> <p>取組状況 高等学校3校(阿南工業高校・阿波高校・池田高校)を指定して、生徒に対し自分の進路や将来の夢・希望を考えるきっかけを与え、学習習慣の定着、学習意欲向上を図るために指導方法や教材の工夫などの取組を行った。その過程や途中の取組状況の報告会、年間を通しての成果発表会を通して、取組についての意見交換や情報の共有を図った。 また、理数教育としては、「国際科学オリンピック」国内予選のための講習会や「科学の甲子園」徳島県大会を開き、理数系に興味・関心のある県下全域の生徒の参加を募り、育成を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【平成24年度の評価】運営指導委員会では、外部の有識者の意見を頂き、取組に生かしてきてきた。また、1年のまとめとして各校の取組の成果報告や発表会では、各校における目標の達成が図られており、主体的に進路を設計する能力や自己表現能力など生徒のさまざまな能力を養うことができた。 ○【5年間のまとめ】今年度から取組の始まった3校についても、今後の継続的な取組により、さらに成果が期待できる。</p> <p>今後の取組及び方向性 本年、より課題を明らかにしつつ取組を継続し、成果発表会等で成果の普及に努める。また、次年度が、完成年度であるため、現在の取組の成果がまとめられるように努める。 また、理数教育の分野については、さらに講習会や大会への参加者数を増やし、理数系に興味・関心のある県内トップ層の育成を図りたい。</p> <p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 義務教育段階の小・中学校間で、相互の連携を一層促進し、教師の児童・生徒に対する継続的な指導や教師間の情報交換により、児童生徒への理解を深めるとともに、学習指導、生徒指導等の充実についての研究を推進する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>100.0%</td> <td>16(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>事業目的 ○小中一貫教育パイオニア事業：3地域指定(18～20年度) ○小：中連携教育実践研究事業：1地域指定(20・21年度) ○教育研究開発事業：3地域指定(21・22・23年度) ○幼小中連携推進モデル事業～学びのかけ橋プロジェクト～：1地域指定(22・23年度) ○小中一貫「学校力」向上事業：3地域指定(22年度) ○学びのかけ橋プロジェクト事業：4地域指定(23年度) ○幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクト：1地域指定(24・25年度)</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>100.0%</td> <td>16(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトにより、藍住町内全ての幼小・小中において、教職員間の相互交流や合同研修、児童生徒による合同活動等を実施し、連携・接続の推進を図った。また、中学校教諭が校区内の小学校に兼務するなど、先進的な取組を推進することができた。本事業の成果を「あわ(OUR)教育発表会」において報告し、広く県内に普及することができた。 ○【5年間のまとめ】幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトの推進により、校種間の連携・接続が図られるようになった。他校種の教員の交流により、教育内容の充実が図られた。</p> <p>今後の取組及び方向性 「学びのかけ橋プロジェクト事業」として、藍住町内の全ての幼稚園・小中学校において幼小中連携の研究指定を行い、交流授業・合同学習・合同研修会や交流活動等、11年間の「学び」や「育ち」をつなぐ教育・地域との連携等について実践的な研究を進めるとともに、その成果の県内への普及に努める。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	推進	推進	推進	—	推進	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																											
—	—	—	推進	推進	推進	—	推進																																											
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																											
3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)																																											
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																											
3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)																																											
21	<p>学校政策課</p> <p>事業名、数値目標実績</p> <p>小中一貫教育の推進</p> <p>○モデル地域(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数値	H19	3	H20	4	H21	7	H22	11	H23	15	H24	16	<p>事業目的 自己の個性を理解した上で、主体的に将来の進路を選択・決定できる能力を地域社会との連携の中で育て、人間関係や将来設計、情報活用等の様々な能力を養う。</p> <p>取組状況 高等学校3校(阿南工業高校・阿波高校・池田高校)を指定して、生徒に対し自分の進路や将来の夢・希望を考えるきっかけを与え、学習習慣の定着、学習意欲向上を図るために指導方法や教材の工夫などの取組を行った。その過程や途中の取組状況の報告会、年間を通しての成果発表会を通して、取組についての意見交換や情報の共有を図った。 また、理数教育としては、「国際科学オリンピック」国内予選のための講習会や「科学の甲子園」徳島県大会を開き、理数系に興味・関心のある県下全域の生徒の参加を募り、育成を図った。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】運営指導委員会では、外部の有識者の意見を頂き、取組に生かしてきてきた。また、1年のまとめとして各校の取組の成果報告や発表会では、各校における目標の達成が図られており、主体的に進路を設計する能力や自己表現能力など生徒のさまざまな能力を養うことができた。 ○【5年間のまとめ】今年度から取組の始まった3校についても、今後の継続的な取組により、さらに成果が期待できる。</p> <p>今後の取組及び方向性 本年、より課題を明らかにしつつ取組を継続し、成果発表会等で成果の普及に努める。また、次年度が、完成年度であるため、現在の取組の成果がまとめられるように努める。 また、理数教育の分野については、さらに講習会や大会への参加者数を増やし、理数系に興味・関心のある県内トップ層の育成を図りたい。</p> <p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 義務教育段階の小・中学校間で、相互の連携を一層促進し、教師の児童・生徒に対する継続的な指導や教師間の情報交換により、児童生徒への理解を深めるとともに、学習指導、生徒指導等の充実についての研究を推進する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>100.0%</td> <td>16(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>事業目的 ○小中一貫教育パイオニア事業：3地域指定(18～20年度) ○小：中連携教育実践研究事業：1地域指定(20・21年度) ○教育研究開発事業：3地域指定(21・22・23年度) ○幼小中連携推進モデル事業～学びのかけ橋プロジェクト～：1地域指定(22・23年度) ○小中一貫「学校力」向上事業：3地域指定(22年度) ○学びのかけ橋プロジェクト事業：4地域指定(23年度) ○幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクト：1地域指定(24・25年度)</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>100.0%</td> <td>16(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトにより、藍住町内全ての幼小・小中において、教職員間の相互交流や合同研修、児童生徒による合同活動等を実施し、連携・接続の推進を図った。また、中学校教諭が校区内の小学校に兼務するなど、先進的な取組を推進することができた。本事業の成果を「あわ(OUR)教育発表会」において報告し、広く県内に普及することができた。 ○【5年間のまとめ】幼小中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトの推進により、校種間の連携・接続が図られるようになった。他校種の教員の交流により、教育内容の充実が図られた。</p> <p>今後の取組及び方向性 「学びのかけ橋プロジェクト事業」として、藍住町内の全ての幼稚園・小中学校において幼小中連携の研究指定を行い、交流授業・合同学習・合同研修会や交流活動等、11年間の「学び」や「育ち」をつなぐ教育・地域との連携等について実践的な研究を進めるとともに、その成果の県内への普及に努める。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)		
年度	数値																																																	
H19	3																																																	
H20	4																																																	
H21	7																																																	
H22	11																																																	
H23	15																																																	
H24	16																																																	
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																											
3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)																																											
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																											
3	4	7	11	15	16	100.0%	16(累計)																																											

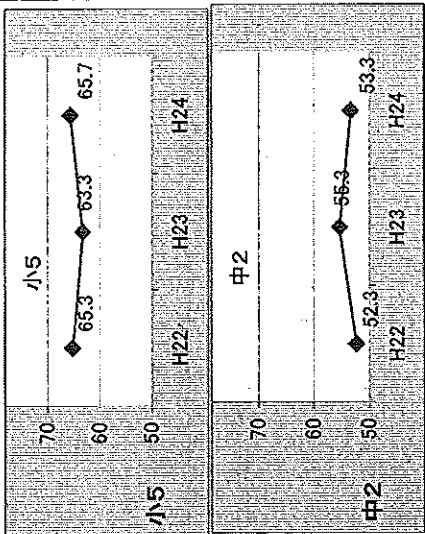
番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
22	「確かな学力」・「豊かな心」の育成	事業名、数値目標実績 少人数学級編制の実施 ○少人数学級(35人を上限とする学級編制)の推進	事業目的 少人数学級編制を導入することにより、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を一層充実させ、児童・生徒のいきいきとした学校生活の実現を支援する。																
			取組状況 全ての小学校1・2・3・4年生及び中学校1年生を対象として引き続き35人学級を実施した。 (国の基準を上回って配置した学級) ○小学校3年生26校26学級 ○小学校4年生19校19学級 ○中学校1年生24校38学級																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学1・2年</td> <td>小学1・2年及び中学1年</td> <td>小学1・2年及び中学1年</td> <td>小学1・2年及び中学1年</td> <td>小学1・2・3年及び中学1年</td> <td>小学1・2・3年及び中学1年</td> <td>達成</td> <td>小学4年に新規導入</td> </tr> </tbody> </table> H24見直し	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	小学1・2年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2・3年及び中学1年	小学1・2・3年及び中学1年	達成	小学4年に新規導入
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
小学1・2年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2・3年及び中学1年	小学1・2・3年及び中学1年	達成	小学4年に新規導入												
			評価 ○【平成24年度の評価】少人数学級編成を小学校4年生へ拡大したことにより、学習内容や学習時間が増える学年にも、よりきめ細かな指導を充実させることができた。 ○【5年間のまとめ】少人数学級編成を拡大し、児童生徒の基本的な生活習慣・学習習慣の定着や一人一人に応じたきめ細かな指導を充実させることができた。																
			今後の取組及び方向性 平成25年度は小学校1・2・3・4年生及び中学校1年生に少人数学級編成を継続するとともに、小学校5年生への拡大を図る。 ○【第2期計画】5-2-3「きめ細かな指導体制の整備」【35人を上限とする少人数学級編制】																
番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
23	「確かな学力」・「豊かな心」の育成	事業名、数値目標実績 少人数指導の充実 ○一定規模以上の学級を有する全ての小・中学校に少人数指導のための追加教員を配置	事業目的 少人数グループ指導やティームティーム指導を効果的に組み合わせ、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を一層充実させ、児童・生徒のいきいきとした学校生活の実現を支援する。																
			取組状況 少人数グループ指導やティームティーム指導を効果的にを行うため、小学校5・6年及び中学校2・3年で25人以上の学級を有する学校に追加教員を配置した。 ○小学校101校176名を配置 ○中学校67校95名を配置																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>25人以上の学級で継続実施</td> <td>—</td> <td>継続実施</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	—	継続実施
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	—	継続実施												
			評価 ○【平成24年度の評価】少人数グループ指導やティームティーム指導により、各学校の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ることができた。 ○【5年間のまとめ】各学校、学年の特性に応じ、少人数グループ指導やティームティーム指導を効果的に組み合わせるなど、各学校の創意工夫のもと、きめ細かな指導の充実を図ることができた。																
			今後の取組及び方向性 各学校・学年の課題に応じ、少人数グループ指導やティームティーム指導、習熟度別指導等を効果的に組み合わせ、児童・生徒一人ひとりに行き届いたきめ細かな指導の継続を図る。																

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
24	<p>退職教員等外部人材の活用</p> <p>○教員の子どもと向き合う時間拡充等のため、退職教員や社会人を小・中学校及び高等学校へ配置</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>退職教員、社会人等の外部人材を活用して、教師が子どもと向き合う時間を増やし、児童生徒の実態や学校の実情に即した教育を展開する。</p> <p>児童生徒の実態や学校の実情に即した教育を展開するとともに、新学習指導要領の先行実施に対応するため、退職教員や豊富な社会人等を小・中・高等学校等に配置した。</p> <p>1 退職教員 ○小学校 8校 8名を配置 ○中学校 3校 3名を配置 ○高等学校 3校 6名を配置</p> <p>2 社会人講師 ○高等学校 2校 7名を配置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の評価】退職教員及び社会人講師を配置し、教員の子どもと向き合う時間を拡充すると同時に、経験や専門性を活かした質の高い指導や必要な支援を行うことができた。</p> <p>○【5年間のまとめ】教員の子どもと向き合う時間を拡充し、経験豊かな社会人講師等の多くの指導者が児童生徒にかかわることで、個に応じた適切な指導や必要な支援を行うことができ、体験活動の充実も図ることができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 引き継ぎ、外部人材を効果的に活用し、学校現場のニーズに対応するとともに、教員が子どもと向き合う時間を確保し、きめ細かな指導の充実を図る。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進											
25	<p>郷土の伝統文化を尊重する教育実践推進</p> <p>○伝統文化を尊重する教育実践研究指定校(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値(累計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>72.7%</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値(累計)	7	12	12	16	16	16	72.7%	22	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>我が国の伝統や文化への関心や理解を深めるとともに、それらを大胆にしようとする態度を育て豊かに生きる力を育むことに資する。</p> <p>外部人材を派遣することにより、人形浄瑠璃をはじめ阿波踊り、郷土料理などの地域の伝統文化や文化財を学ぶ機会の充実が図られた。人材バンクの活用を含め、学校と地域の繋がりを深める取組が見られている。</p> <p>指定校事業の縮小、枠組みの変更により、H24年度以降は、指定校はなくなったが、それまでの実践指定各校で取組が継続されている。</p> <p>○【平成24年度の評価】学校では国や県の派遣事業を活用し、郷土とくしくの伝統文化や文化財の学習に取り組んだ。</p> <p>○【5年間のまとめ】生徒が地域の伝統や文化に触れる機会を充実し、教育課程上の位置付け、指導内容、指導方法、教材等についての実践研究に取り組んだとともに、外部人材の効果的な活用が図られた。</p> <p>今後の取組及び方向性 実践研究校の取組の成果を県内各校に広報し、普及発展に努める。 ○【第2期計画】1-5-2 「伝統文化の継承と文化芸術の創造」 「伝統文化と文化財保存・継承」 【伝統文化や文化財に関</p>
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値(累計)											
7	12	12	16	16	16	72.7%	22											

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性														
26	<p>「豊かな心」の育成</p> <p>保護者の有害環境対策フィルタリングの認知率</p> <p>○保護者の有害環境対策フィルタリングの認知率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知率</td> <td>86.0%</td> <td>89.3%</td> <td>92.5%</td> <td>96.8%</td> <td>98.4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p>	年度	H20	H21	H22	H23	H24	目標値	認知率	86.0%	89.3%	92.5%	96.8%	98.4%	100%	<p>事業目的 保護者の責務として、フィルタリングサービスを認知し、利用することにより、児童生徒が安全に携帯電話を使用できるような環境を整える。また、そのことにより、有害サイト等を通じて被害リスクの低下を図る。</p> <p>取組状況 携帯電話は、今や非常時の情報収集や家族等との情報伝達ツールとして、必要不可欠な存在である。しかし、一方で犯罪等に利用される危険性もある。そこで、NTTドコモの専門家を学校に派遣し、携帯電話のルールやマナーなど情報モラルについての指導を行うため、携帯電話安全教室を行っている。 また、県PTA振興大会において、啓発用リーフレットを配付し、携帯電話の適切な使用に関して啓発を行った。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度の保護者のフィルタリングサービスの認知率は、98.4%となり、ほとんどの保護者が認知している結果となっている。 ○【5年間のまとめ】平成20年度より認知率は毎年増加しており、平成24年度には過去5年間で一番高い98.4%となった。今後も認知率を100%に向け、継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>今後の取組及び方向性 保護者のフィルタリングサービスの認知率は98.4%と高い水準にあるが、今後も機会をとらえて、保護者向けの啓発用リーフレット等を配付し、携帯電話の適切な使用に関して啓発を行う等、フィルタリングサービスの認知率100%に向けて取り組んでいく。 また、各学校において携帯電話安全教室等の機会を活用し、情報メディアを介してトラブルに巻き込まれる危険性等についての指導や情報モラルの指導の充実を図る。</p>
年度	H20	H21	H22	H23	H24	目標値										
認知率	86.0%	89.3%	92.5%	96.8%	98.4%	100%										
27	<p>「豊かな心」の育成</p> <p>学校政策課</p> <p>事業名、数値目標実績</p> <p>スクールカウンセラー—全校配置の推進</p> <p>○スクールカウンセラーの全公立小・中学校、県立学校への配置</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>事業目的 児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、生徒、保護者、教職員の相談等に応じ、生徒に係る諸課題の解決及び教育の充実を図る。</p> <p>取組状況 児童生徒のいじめや不登校等の問題行動に対応するため、スクールカウンセラーを全公立小・中学校と高校の一部に配置し、児童生徒へのカウンセリング、保護者及び教職員に対する助言や援助を行えるよう、相談体制の充実を図った。また、すべての県立学校へも要請に応じて派遣できるようにしている。 平成24年度の配置状況は、臨床心理士等45名をスクールカウンセラーとして66校の拠点校に配置した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置状況</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>配置</td> <td>配置</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>県立学校を追加 H24見直し</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】各校のスクールカウンセラーの活用状況や不登校・いじめ等問題行動状況から判断し、各拠点校の相談時間を3段階に濃淡をつけることで、スクールカウンセラーの一層の効果的な活用につなげることができた。 ○【5年間のまとめ】全公立小中学校にスクールカウンセラーが配置されたことで、相談体制が整備され、小・中学校を通して継続的なカウンセリングが実施することが可能となった。また、生徒指導上の諸問題の解決にも大きな役割を果たしている。</p> <p>今後の取組及び方向性 相談件数が増加するなかで、1人に充てられる相談時間が少なく、継続した相談が必要な児童生徒への対応が難しくなっている。そのため、相談時間を工夫することや緊急の支援体制を整備することにより、相談体制の一層の充実を図る。 ○【第2期計画】5-1-4「教育相談体制の充実」【スクールカウンセラーの職務に対する学校の評価(満足度)】</p>	年度	H20	H21	H22	H23	H24	目標値	配置状況	推進	推進	推進	配置	配置	推進
年度	H20	H21	H22	H23	H24	目標値										
配置状況	推進	推進	推進	配置	配置	推進										

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
28	「豊かな心」の育成	スクールソーシャルワーカー活用推進 ○スクールソーシャルワーカー数 	事業目的 社会福祉士等を学校や適応指導教室へ派遣し、児童生徒がおかれた様々な環境の問題の解決に資する。 取組状況 平成24年度は、平成23年度の8名から1名増員し、9名のスクールソーシャルワーカーを委嘱して、保護者や学校からの児童生徒の問題行動についての相談に対応した。問題行動等の背景には、児童生徒がおかれた様々な環境の問題が複雑に絡み合っているため、心理的なカウンセリングに加えて、社会福祉士による環境改善を図る取組を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>100%</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> H24見直し 評価 ○【平成24年度の評価】平成23年度から1名増員したことにより、児童生徒の問題行動に、心理面の専門家と社会福祉士が組になって対応に当たることができた。より効果的に問題解決に結びつけることができた。一方で、スクールソーシャルワーカーの存在や目的の周知が不十分であり、活躍の機会が限られているため、今後、より一層広報に努め、周知徹底を図る必要がある。 ○【5年間のまとめ】スクールソーシャルワーカーが各関係機関との連携を密に取り、児童生徒が置かれた環境の問題に働きかけ、問題解決に結びつけることができた。このことは、主として心のケアを進めるカウンセリング中心の教育相談をさらに充実させることにつながった。 今後の取組及び方向性 児童生徒の問題行動の背景には、様々な環境の問題が複雑に絡み合っており、教員だけでは対応しきれない場合も少なからず見られるので、社会福祉士を派遣し、各関係機関と連携・調整するコーディネートを行い、児童生徒をめぐる環境の改善を図っていくとともに、公的サービス等の紹介をより進めようとする。また、県内における社会福祉士の数は限られているが、優秀な人材を確保することに努め、相談体制のさらなる充実を図っていく。 ○【第2期計画】5-1-4「教育相談体制の充実」【スクールソーシャルワーカー配置数】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	4	5	6	7	8	9	100%	9
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
4	5	6	7	8	9	100%	9												
29	「豊かな心」の育成	学校政策課 事業名、数値目標実績 阿波っ子スクールサポーターチーム(ASST)活動の充実強化 ○児童生徒の問題行動へ迅速に対応するため、関係機関が連携して支援を図る	事業目的 児童生徒による問題行動(非行、いじめ、暴力行為、虐待、不良行為等)で課題を抱えている学校に対し、速やかに担当者を派遣するとともに、必要に応じて関係機関と連携を図り、チーム会議を開催するなど、直接的支援を行うことで問題の解決を図る。 取組状況 県警察少年サポートセンターと県教委学校政策課で組織し、児童相談所や所管の警察署及び青少年補導センター等の関係機関と連携を図りつつ、チーム会議を開催して問題の解決に取り組んだ。 平成24年度は、18名の生徒保護者を対象に、8校(小学校1校、中学校7校)で計10回の会議を開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】ASST会議を開催することにより、参加した関係機関は、学校の担当者等から直接状況を聞くことができ、正確な状況把握ができるようになった。また、学校はチーム会議を通して関係機関の担当者を知ることにより、児童生徒の適正な処遇について、関係機関と連携が図りやすくなった。 ○【5年間のまとめ】ASST会議を開くことにより、参加した関係機関は、学校の担当者等から直接状況が聞け確かな状況の把握ができた。また、学校側は、チーム会議を通して関係機関の担当者を知ることにより、児童生徒の適切な処遇について関係機関と連携が図りやすくなった。 今後の取組及び方向性 ○いじめ・暴力行為等の問題行動を繰り返し起こす児童生徒の背景には、さまざまな要因が関係しているケースもあり、大学教授や臨床心理士等、より専門的な知識を持つ専門家の判断や助言も受けていく。 ○学校だけでは、解決が困難な児童生徒の問題行動に対し、機敏に対応するため、日頃より関係機関との情報交換を密にし連携を図ることにより、迅速な対応に結びつける。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性
30	「健やかな体」の育成	子どもの体力向上の推進 ○「体力アップ100日作戦！」達成率 	事業目的 小学校低・中学年児童の体力向上と、運動習慣の確立、望ましい生活習慣の形成を図る。 取組状況 全国平均より低位な状況にある本県の子どもの体力向上と運動習慣や生活習慣の形成を目指して平成19年度より「体力アップ100日作戦！」を継続実施している。 「なわとびを1日100回飛ばす」「早起きをしてラジオ体操をする」「好き嫌いをせず給食を残さず食べる」など、体力向上、望ましい生活習慣形成の目標を児童自身を立て、100日の達成をめざしている。平成22年度からは、対象を小学4年生まで広げ実施している。 評価 ○【平成24年度】達成率は94.6%であり、昨年度の94.1%を上回り、目標値に近づいた。 ○【5年間のまとめ】取組みの定着とともに成果が目に見えるようになってきた。今後、全国調査等の結果を生かした取組にしていける必要がある。 今後の取組及び方向性 本県の課題である「朝食の摂取状況」や「睡眠時間」の改善に向けた目標に取り入れ、健康増進課と連携しながら取組みを家庭や地域に広げ、運動習慣の確立、望ましい生活習慣の形成を図る。 ○【第2期計画】2-3-1「学校体育の充実と運動習慣の確立」【全国体力運動能力調査結果における全国順位】
31	「健やかな体」の育成	子どもの体力向上の推進 ○子どもの体力向上支援プランの策定・推進 体育学校安全課	事業目的 全国平均を下回る状況が続いている子どもの体力・運動能力を全国平均レベルに向上させる。 取組状況 平成24年度は、支援プランを具体的な行動目標として示した「子どもの体力向上アクションプラン」を受け、「体力向上スマイル事業」を実施し、体力向上計画に基づく各校の取組を支援した。具体的には、小学校体育授業へ専門的指導員の派遣、ICTランニングシステムを利用した運動習慣の確立、体力向上、生活習慣における目標の100日達成や歩数計の活用による取組、トップアスリートを招聘した実技講習会等を実施した。 評価 ○【平成24年度の評価】平成22年度の前回調査に比べ多くの種目で県平均を上回っており、全国平均以上の種目も4種目から7種目に増え、体力向上の兆しが現れた。 ○【4年間のまとめ】アクションプランの実施により、学校が子どもの体力に危機感をもって取り組んだ結果、子どもの体力が少しずつ向上している。今後は学校・家庭・地域との連携を図った取組を進めていく必要がある。 今後の取組及び方向性 学校・家庭・地域と連携して「学校体育の充実」「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」を柱とする取組を継続かつ充実させていく。 ○【第2期計画】2-3-1「学校体育の充実と運動習慣の確立」【全国体力運動能力調査結果における全国順位】

番号	事業名、数値目標実績	事業目的	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
32	子どもの体力向上の推進 ○「運動が好きな児童生徒」の割合 	「健やかな体」の育成 ○「運動が好き」な子どもを育て、日常的に運動を実施する習慣の形成を図る。 「体育授業はつらさポサポート」を実施し、体育授業に専門員を派遣して運動の楽しさとできるよるこびを味わわず取組を実施した。また、小学校高学年から中学生を対象に「元気アップチャレンジ」を実施し、歩数計を活用する取組等を通じて運動習慣の形成を図った。	取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>小5 65.3 中2 52.3</td> <td>小5 63.3 中2 55.3</td> <td>小5 65.7 中2 53.3</td> <td>小5 93.9% 中2 91.9%</td> <td>小5 70.0% 中2 58.0%</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】「運動が好き」と答えた子どもの割合は、小学5年男子が75.5%（前回72.7%）、女子が55.8（前回55.6%）、中学2年男子が61.6%（前回61.9%）、女子が45.0%（前回42.6%）であり、運動好きな子どもが増加している。 ○【3年間のまとめ】運動好きな子どもの方が体力得点が高いことは実証されており、今後も運動に対する好意的態度育成に努めていく必要がある。 各種取組の充実を図り、運動の楽しさやできる喜びを味わわせる。小学校の体育授業に大学教員に加え新たに県内プロスポーツ選手の派遣、ICTのランキングシステムを活用し、運動の苦手な子どもが取り組める運動種目の提供、運動・生活習慣の改善を目標の100日達成をめざした取組、歩数計を活用した取組を行う。さらに、小学3・4年生を対象に新体力テストの向上を行い、記録の向上や競い合う継続を通して自分の体力に関心をもち、スポーツリユニークを通して体力の向上を図る。 ○【第2期計画】2-3-1「学校体育の充実と運動習慣の確立」【全国体力運動能力調査結果における全国順位】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	小5 65.3 中2 52.3	小5 63.3 中2 55.3	小5 65.7 中2 53.3	小5 93.9% 中2 91.9%	小5 70.0% 中2 58.0%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	小5 65.3 中2 52.3	小5 63.3 中2 55.3	小5 65.7 中2 53.3	小5 93.9% 中2 91.9%	小5 70.0% 中2 58.0%												
33	事故防止の研修会の開催 ○研修会の開催	「健やかな体」の育成 熱中症に関する研修会を実施し、事故防止に対する教師の指導力の向上を図る。 県内を西中南3ブロックに分け、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校から1名ずつの教職員が参加し、大学教授を講師に迎え研修会を実施した。	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 熱中症の予防と事故発生時の適切な対応について研修会を実施し、事故防止に対する教師の指導力の向上を図る。 県内を西中南3ブロックに分け、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校から1名ずつの教職員が参加し、大学教授を講師に迎え研修会を実施した。																
33	「健やかな体」の育成 ○研修会の開催	事業目的 熱中症に関する研修会を実施し、事故防止に対する教師の指導力の向上を図る。 県内を西中南3ブロックに分け、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校から1名ずつの教職員が参加し、大学教授を講師に迎え研修会を実施した。	取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】学校教育活動中に「熱中症」の症状を呈して、医療機関を受診した児童・生徒数は、平成23年度58名であったが、平成24年度は48名と減少した。 熱中症に関しては、平成23年度に死亡事故も発生していることから、予防や対処法に関する研修会を今後も継続実施していく。 ○【第2期計画】5-1-3「登下校・部活動・体育授業時の安全確保」【学校管理下において、熱中症の症状を呈して医療機関を受診した児童生徒数】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	—	—	実施	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	—	—	実施	—	推進												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
34 新	「健やかな体」の育成	柔道実施校への外部指導者の派遣 ○外部指導者の派遣	<p>事業目的</p> <p>平成24年度より、中学校で必修となった武道の中で、事故が危惧される柔道を実施するすべての学校に外部指導者を派遣する。外部指導者とのチームティーチングの実施により、事故を未然に防止するとともに、教員の指導力の向上を図る。</p> <p>取組状況</p> <p>徳島県柔道連盟と連携し、柔道を実施した22校すべての学校に外部指導者を派遣し、チームティーチングを実施した。また、安全で無理のない指導計画を専門家のアドバイザーを受けながら実施することができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>100%</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24新規</p> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】チームティーチングにより柔道の指導経験の浅い教員の授業力向上や安全な指導計画に基づいた授業ができた。また、柔道の授業中における事故(事故報告)はなかった。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>今後も、徳島県柔道連盟と連携し、柔道を実施するすべての学校に外部指導者を派遣し、チームティーチングを実施していく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	-	22	100%	22
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
-	-	-	-	-	22	100%	22												
35	「健やかな体」の育成	<p>体育学校安全課</p> <p>事業名、数値目標実績</p> <p>学校保健の充実 ○専門医派遣回数(累計)</p>	<p>事業目的</p> <p>子どもの現代的な健康課題に対応するために、地域の専門医を学校に派遣し、教員に対する指導助言や、子どもや保護者に対する健康相談を行い、学校における子どもの現代的な健康課題に対応するための体制づくりを推進する。</p> <p>取組状況</p> <p>平成23年度末までに延べ126回、各診療科の専門医等を学校に派遣し、専門家による教職員への指導助言、講話や講演、児童生徒等の健康相談等を行い、学校保健の充実を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値(累計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>67</td> <td>97</td> <td>126</td> <td>134</td> <td>104.7%</td> <td>128</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】地域学校保健委員会に専門医を派遣することにより健康課題の解決に向けた体制づくりが推進された。効果的な取組みを広く周知する必要がある。</p> <p>○【5年間のまとめ】各診療科の専門医が学校に赴き、教職員への指導助言、講話や講演、児童生徒や保護者への健康相談等を行うことにより健康課題に対応するための体制づくりが推進できた。また、子どもも実情に即した具体的な健康課題の解決に結びついた。健康課題は多様化しており、様々な診療科の医師の協力が欠かせない。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>○【第2期計画】2-3-3「学校保健の充実」【健康課題に対する地域検討会、研修会、講演会等の開催回数(累計)】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値(累計)	-	-	67	97	126	134	104.7%	128
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値(累計)												
-	-	67	97	126	134	104.7%	128												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
36	「健やかな体」の育成	<p>学校保健の充実</p> <p>○肥満傾向児の出現率の低減を推進</p>	<p>事業目的</p> <p>徳島県の肥満傾向児の出現率は、全国値と比較すると高い傾向にあり、肥満から糖尿病や高血圧、心疾患、脂質異常症など様々な生活習慣病が引き起こされることから、小児期からの肥満対策を推進し、生活習慣病予防に取り組む。</p> <p>取組状況</p> <p>各学校においては、保健体育科、家庭科等の教科で、運動や食生活などの望ましい生活習慣などについて指導を行うとともに、肥満傾向児の指導については、栄養教諭及び学校栄養職員、薬師教諭、担任が保護者や学校医と連携し、個別に指導を行った。また、県医師会と連携し「肥満健康管理システム」、学校糖尿病検尿システム」を高等学校でも開始し、積極的な介入が困難であった高等学校における肥満対策についても丁寧な個別指導を行うことにより推進した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】肥満の健康管理システムを活用し丁寧な個別指導を行うとともに、体力や食育の事業と連携し多方面から肥満予防、生活習慣予防に取り組んだ。家庭の協力を得られるよう保護者への一層の啓発が必要である。</p> <p>○【2年間のまとめ】生活習慣病予防に継続して取り組んだ結果、県全体の肥満傾向児の割合は年次のみれば低下しているが、平成24年度学校保健統計調査では肥満傾向児の占める割合では、6歳の女子を除く全ての年齢で全国平均を上回っており、依然として、肥満対策は重要である。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>○【第2期計画】2-3-3「学校保健の充実」【健康課題に対する地域検討会、研修会、講演会等の開催回数(累計)】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	—	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	—	推進	推進	—	推進												
37	「健やかな体」の育成	<p>体育学校安全課</p> <p>事業名、数値目標実績</p> <p>学校食育の推進</p> <p>○食育全体計画の策定</p>	<p>事業目的</p> <p>食に関する知識と変を選択する力を習得するために、学校において魅力ある食育を推進し、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。</p> <p>取組状況</p> <p>「徳島県学校食育指導プラン」(平成20年3月策定)に示した食育全体計画の標準モデルをもとに、平成20年度には、県内全ての小・中・高・特別支援学校において、各校の食育全体計画が策定された。</p> <p>平成21年度～平成24年度はその改訂を行い、各校や地域の実態に応じた食に関する指導を、学校の教育活動全体を通して系統的・計画的に進めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> <td>達成</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で策定</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】教職員の間で共通理解のもと、学校教育活動全体で系統的・計画的に食育を推進するための全体計画策定体制を整備されてきた。食育全体計画に基づき、各教科等における食に関する指導の充実を図るとともに、学校給食を生きた教材として活用する取組が増えつつある。</p> <p>○【5年間のまとめ】「徳島県学校食育指導プラン」策定後4年を経過することから、国の第2次食育推進基本計画、第2次徳島県食育推進計画、学習指導要領に沿って、この見直しと修正を行う必要がある。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>学校における食育推進検討委員会、ワーキンググループ会議を設置し、「徳島県食育指導プラン」の改訂に取り組む。また、改訂に当たっては県内2地域を推進地域として指定し、モデルプランの策定を進める。より系統的・計画的に食育を推進するするために、各学校で策定している食育全体計画に基づいた「食に関する指導年間指導計画」の作成と整備についても研究を進める。</p> <p>食育全体計画に基づいた実践的な取組を発表会や報告書で県内に広く紹介すること、啓発を図る。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	達成	全小・中・高・特別支援学校で策定
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	全小・中・高・特別支援学校で策定	達成	全小・中・高・特別支援学校で策定												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																		
38	「健やかな体」の育成	学校食育の推進 ○栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導実施校数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数値</td> <td>123</td> <td>174</td> <td>213</td> <td>220</td> <td></td> <td></td> <td>96.8%</td> <td>220</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	数値	123	174	213	220			96.8%	220	事業目的 「食に関する知識」や「食を選択する能力」を身に付け、「感謝の心」や「食文化を尊重する心」を育むために、栄養教諭が中核となり、その専門性を生かして、全公立小中学校での食に関する指導を充実し、徳島ならではの魅力ある食育を推進する。
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値													
数値	123	174	213	220			96.8%	220													
			取組状況 栄養教諭研修会等で、受配校や栄養職員未配置校等域内の全中学校で教職員と連携・協力し、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導を実施するよう周知してきた。 給食時間における指導に加え、教科等における指導、給食試食会や食育講演会等での保護者へ啓発、また、食物アレルギ一等個別相談指導が計画的に行われるようになってきた。																		
			評価 ○【平成24年度の評価】未配置校への食育支援体制が整い、所属校に限らず全域で同レベルの食育推進に向け取組を開始した市町村もあり、食育推進コーディネーターとしての栄養教諭の役割が浸透してきた。 ○【3年間のまとめ】栄養教諭が担任とのITで食に関する指導を行う等、取組状況は増えてきている。しかし、センター勤務の栄養教諭は、日常業務と各校指導時期が重なり、全受配校で指導を行う時間の確保が難しい。																		
			今後の取組及び方向性 市町村教育委員会の食育担当者や学校に対する説明により、事業目的の周知を図り、全学校で栄養教諭を活用した食に関する指導を実施しやすい体制を整えるよう働きかける。 各市町村や学校における取組状況を定期的に把握し、促進に努めるよう働きかける。 【第2期計画】2-3-2「学校における食育の推進」【栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導実施校(公立小中学校)】																		
番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																		
39	「健やかな体」の育成	学校給食における地場産物の活用 ○学校給食における地場産物活用量 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>50.0%</td> <td>53.0%</td> <td>53.0%</td> <td>56.0%</td> <td>58.2%</td> <td>60.0%</td> <td>100.0%</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	割合	50.0%	53.0%	53.0%	56.0%	58.2%	60.0%	100.0%	60%	事業目的 地場産物を「教材」及び「食材」として一体的に活用し、地域の自然や産業、文化等について学ぶとともに、学校給食で食し、「食」を総合的学習することにより、望ましい食生活や食料生産等に対する子どもの関心と理解を深めるとともに、地産地消を進める。
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値													
割合	50.0%	53.0%	53.0%	56.0%	58.2%	60.0%	100.0%	60%													
			取組状況 平成19年度より調査を開始し、平成20年度より年3回(6月・11月・1月の連続した5日間)を実施している。 栄養教諭研修会等で各市町村の取組みを情報交換するとともに、各市町村で「学校給食供給ネットワークづくり」の充実を図った。 また、徳島県産の食材を活用し、朝食や学校給食をテーマとしたアイデア料理コンテストを開催し、入賞作品をレシピ集として配布するとともに、H1Pに掲載するなど情報発信に努めた。																		
			評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度は食材数ベースで前年度より1.8ポイント上昇し、活用率60.0%となった。高校生発生案のレシポや徳島県の郷土料理を取り入れるなど、地元食材を活用した献立を積極的に導入する取組が見られた。 ○【5年間のまとめ】平成19年度の調査開始時には、約50%であったが、平成24年度までに約10ポイント向上した。各市町村教育委員会の地場産物活用に対する認識はだんだんと高まってきている。																		
			今後の取組及び方向性 季節により活用率が異なり、京阪神を主な出荷先としている県産食材の価格や数量の確保が課題となる。また、衛生管理面や栄養価・給食費など、様々な条件の中で、できるだけ多くの県産食材を使用した献立が作成できるよう、栄養教諭・学校栄養職員・給食費の向上を図る必要がある。 今後も、地域の産直市や生産者団体等の協力を得ながら、各調理場の食数や各地域の実態に応じた供給体制の確立を進める。平成25年度より、従来の本県独自の活用率に改め、国や他の地域との比較検討ができるよう改める。 ○【第2期計画】2-3-2「学校における食育の推進」【学校給食における地場産物の活用率】																		

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性														
40	<p>理解・啓発の推進</p> <p>○特別支援学校と交流・共同学習等を実施している学校・団体数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>数値</td><td>88</td><td>94</td><td>78</td><td>119</td><td>120</td><td>131</td></tr> </table> <p>特別支援教育の充実</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	数値	88	94	78	119	120	131	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>特別支援教育の理解・啓発の推進を図ることで、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎づくりを行う。</p> <p>特別支援学校の幼児児童生徒が、自分の住んでいる地域にある幼稚園、小中学校等の授業や学校行事に参加する「居住地域交流」44団体、特別支援学校と近隣の幼稚園、小中学校等の間で交流をする「学校間交流」67団体、特別支援学校が近隣の施設等と交流をする「地域交流」20団体により、積極的に交流及び共同学習を行い、特別な支援を必要とする幼児児童生徒及び特別支援教育についての理解・啓発を推進した。</p> <p>○【平成24年度の評価】学校間交流が増え、回数を重ねるごとに交流の深まりがあった。計画や評価が丁寧に行われていた。</p> <p>○【5年間のまとめ】交流及び共同学習の実施状況については、平成21年度は新型インフルエンザの影響で78団体に減少したものの、毎年団体数は増加している。交流形態も、行事や授業を通して直接ふれあう交流から、作品や発表を通しての交流、メールや手紙等による間接的な交流まで多様化してきている。また、継続的・発見的な取組事例も多く、特別支援教育の理解・啓発が進んでいると言える。</p> <p>○【今後の取組及び方向性】今後は数値を伸ばすだけでなく、かかわるすべての人にとって充実した交流活動を実施するために、学校の特徴や幼児児童生徒の実態に応じて内容や方法について工夫していくことが必要である。さらに、交流校・団体との連携体制、安全面の確保、緊急時の対応に配慮しながら取り組んでいく。</p>
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24										
数値	88	94	78	119	120	131										
41	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実</p> <p>○「個別の指導計画」を作成している学校の割合</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><td>割合</td><td>47.0%</td><td>66.0%</td><td>95.0%</td><td>97.5%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </table> <p>特別支援教育の充実</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	割合	47.0%	66.0%	95.0%	97.5%	100%	100%	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を充実させるために、個々の幼児児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うための計画を明記した「個別の指導計画」の作成を推進する。</p> <p>管理職対象の研修会等で幼児児童生徒に対する「個別の指導計画」の必要性を示すとともに、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級新担任者等に「個別の指導計画」の作成と活用についての研修を行い、「個別の指導計画」の作成を推進することにより、幼児児童生徒一人ひとりの支援の充実を図った。</p> <p>○【平成24年度の評価】幼稚園、小学校、中学校、高等学校の中で、「個別の指導計画」の作成が必要な児童生徒が在籍している学校では、その作成率は100%であった。</p> <p>○【5年間のまとめ】作成率が向上し、平成23年度から100%になっている。今後は作成率の維持とともに活用について更に検討していく必要がある。</p> <p>○【今後の取組及び方向性】「個別の指導計画」の有用性についての理解が深まり、必要な幼児児童生徒が在籍しているすべての学校で作成・活用されるようになった。今後も特別な支援が必要なすべての幼児児童生徒について作成された「個別の指導計画」の指導内容の充実にも努め、教職員等が連携してきめ細やかな支援が行われるよう積極的に活用していく。</p>
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24										
割合	47.0%	66.0%	95.0%	97.5%	100%	100%										

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
42	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実 ○「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合</p> <p>特別支援教育の充実</p>	<p>事業目的 乳幼児期から学校卒業までの長期な視点に立ち、障害のある幼児児童生徒の生活全般にわたる支援を効果的にするために保健・教育・福祉・医療等の関係機関が情報を共有した「個別の教育支援計画」の作成を推進する。</p> <p>取組状況 平成23年度作成した「個別の教育支援計画」の形式を活用し、特別支援教育コーディネーター研修等で具体的な作成の手順や活用方法等について周知を図った。地域特別支援連携協議会連綿会において、福祉、医療等、関係機関と連携して「個別の教育支援計画」の作成を行っている市に発表を依頼するなどして、その成果を全市に情報提供した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>85.0%</td> <td>87.0%</td> <td>96.0%</td> <td>94.1%</td> <td>97.0%</td> <td>97%</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】小学校、中学校、中学校の中で、「個別の教育支援計画」の作成が必要な児童生徒が在籍している学校では、その作成率は94.1%になった。しかし、個々の幼児児童生徒でみると、保護者の了解が得られなかったため作成が困難な状況もある。 ○【4年間のまとめ】今後も保護者に適切な情報を提供し、作成支援を推進していく必要がある。</p> <p>今後の取組及び方向性 「個別の教育支援計画」は、長期的な視野に立って、保護者の了承のもと、学校、関係機関が連携して子どもたちの社会参加に向け支援していくための計画であり、学校関係者へは、かなり浸透が図られた。今後は、保護者への理解啓発に一層努め、関係機関の連携が必要とするすべての幼児児童生徒について「個別の教育支援計画」が作成・活用され、早期から就労まで一貫した支援につなげるようにする。第2期計画も目標を一部変更して数値目標を設定する。 ○【第2期計画】2-4-1「相談支援体制の充実」【ニーズに応じた「個別の教育支援計画」の作成率】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	85.0%	87.0%	96.0%	94.1%	97.0%	97%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
-	-	85.0%	87.0%	96.0%	94.1%	97.0%	97%											
43	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実 ○県立高等学校に特別支援教育支援員を配置し、支援対象生徒の学校生活の充実等を図るとともに、学校全体による支援体制の構築を図る</p> <p>特別支援教育課</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>事業目的 県立高等学校には、発達障害等により、特別な支援を必要とする生徒が約2.6%在籍していると推測されるので、その生徒たちの学校生活の充実や、学校不適応状態の予防改善を行う。</p> <p>取組状況 特別な支援を必要とする生徒に個別的な支援を行う、特別支援教育支援員(学習支援員)を高等学校2校に1名ずつ配置し、生徒が苦手とする実技・実習を中心とした支援を行った。 また、発達障害等の校内研修会や、学習支援員の研修会参加などをとおして、校内の教職員全体で障害特性を理解するなど、支援体制の充実を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>配置</td> <td>配置</td> <td>配置</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【平成24年度の評価】特別支援教育支援員を配置することにより、生徒が心理的に安定し学習効果が高められた。また、学校全体の理解推進により、周囲の生徒のサポートも得られるようになり、個別の指導計画の作成など、校内支援体制も充実してきた。 ○【3年間のまとめ】平成22年度から特別支援教育支援員を配置することで、きめ細やかな支援や校内支援体制の強化が図られた。 高等学校における支援員の位置づけを明確にし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援について、校内体制がさらに充実するように努めていく。また、特別支援教育巡回相談員との連携を図り、社会的・職業的自立に向けた進路指導体制を推進する。さらに、幼稚園、小学校、中学校の通常の学級との連携を進め、一貫した支援体制の充実を努め、得られた知見・成果は、徳島県発達障害教育研究会を通じて県内、全国へと情報発信を行う。</p> <p>今後の取組及び方向性 特別支援教育課</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	配置	配置	配置	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
-	-	-	配置	配置	配置	-	推進											

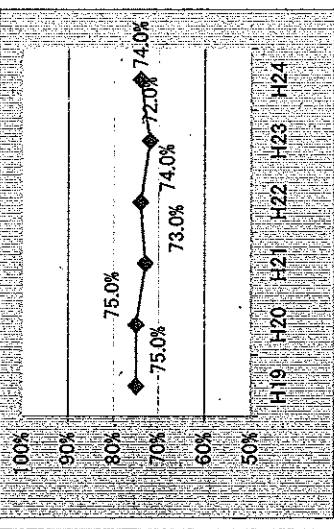
番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																		
44	<p>特別支援学校における支援の充実 ○進路開拓のための特別支援学校教員や就労支援アドバイザーによる事業所等への訪問回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問回数</td> <td>833</td> <td>918</td> <td>830</td> <td>913</td> <td>1,092</td> <td>1,283</td> <td>116.6%</td> <td>1,100</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24見直し</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	訪問回数	833	918	830	913	1,092	1,283	116.6%	1,100	<p>事業目的 長引く景気の低迷による雇用状態の悪化で、特別支援学校卒業生の就労については厳しい状況になっているので、就労先や、就労につながらざる就業体験受け入れ先の開拓を行う。</p> <p>取組状況 特別支援学校の進路担当者及び進路担当者を補佐する就労支援アドバイザーが中心となり、生徒一人ひとりのニーズや能力に応じた就労先や就業体験先を確保するため、各事業所等を訪問した。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】事業所等訪問を1,283回行い、特別支援学校高等部生徒が29名就職した。 ○【5年間のまとめ】就労支援アドバイザーを配置することにより、就労先及び就業体験先の確保数が増加した。今後も一人ひとりの適性にあった事業所と生徒との効果的なマッチングをする必要がある。</p> <p>今後の取組及び方向性 就労支援アドバイザーが開拓した就労先や就業体験先を進路担当教員も積極的に訪問し、生徒のニーズに応じた就労先等の確保に努めるとともに、生徒自身の効率的なスキルアップに向けた取組を進める必要がある。第2期計画も目標を一部変更し、数値目標を掲げて取り組んでいく。 ○【第2期計画】2-4-2「就労支援の充実」【特別支援学校の就業体験協力事業所数(累計)】</p>
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
訪問回数	833	918	830	913	1,092	1,283	116.6%	1,100												
45	<p>特別支援学校における支援の充実 ○とくしま特別支援トータルネットワークの推進</p>	<p>事業目的 特別支援学校が専門性を高め、幼児児童生徒一人ひとりに応じた教育を行うための研修を実施するとともに、高等学校に対する特別支援教育体制の充実や、地域の小・中学校等に在籍する視覚障害・聴覚障害のある児童生徒への支援のため、NPOを派遣する。</p> <p>取組状況 各特別支援学校において、校内外の教員を対象に、障害種に応じた研修を行った。また、国の委託事業「高等学校等における視覚障害のある生徒のキャリア教育の充実」事業を活用し、徳島中央高等学校が研究を行った。さらに、視覚障害・聴覚障害のある児童生徒への支援のため、盲学校、聾学校を担当校として地域の小・中学校等へNPO等を派遣した。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】特別支援学校が専門性を高め、幼児児童生徒一人ひとりに応じた教育を行うための研修を実施し、約700名が参加した。徳島中央高等学校の研究については、板野支援学校及びびみなと高等学園が連携して進めることができた。視覚支援・聴覚支援のためのNPO等派遣について、66回実施した。 ○【2年間のまとめ】平成23年度から始まった事業であり、成果が上がっている。特別支援学校の専門性の向上及びセンター的機能の発揮のために必要な取組である。</p> <p>今後の取組及び方向性 国の委託事業も活用して、高等学校における発達障害のある生徒への支援について実践研究を行うとともに、発達障害教育研究会を通じて得られた知見を県内外に発信していく。また、視覚障害・聴覚障害のある児童生徒等へ支援のため、引き継ぎ盲学校、聾学校を担当校として地域の小・中学校等へNPOのボランティア等を派遣する。さらに、特別支援学校が、地域の中心として他機関と連携・調整を行いながら、地域の教育資源を活用した取組を推進する。</p>																		

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
46	特別支援教育の充実	<p>特別支援学校における支援の充実 ○巡回相談員等の支援回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>1866</td> <td>2165</td> <td>1866</td> <td>1889</td> <td>2300</td> <td>82.1%</td> <td>2,300</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	回数	1866	2165	1866	1889	2300	82.1%	2,300	<p>事業目的 特別支援学校が地域の中核として特別支援教育におけるセンター的機能を発揮するために、各学校とも数名の教諭を特別支援教育巡回相談員に指名し、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校等への相談支援を行う。</p> <p>取組状況 25名の特別支援教育巡回相談員が、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校等の幼児児童生徒を対象に、出張相談、来所相談、電話・メール相談等を行った。また、各学校や市町村教育委員会等の要請を受け、発達障害等の障害のある幼児児童生徒の理解や体制作りのための研修会に昨年度の約2倍の282回出席し、講師等を務めた。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】平成23年度に比べると、支援等の回数は23回増えた。校内研修参加の要請が増え、特別な支援を必要とする幼児児童生徒のための校内体制の強化を支援する役割が増えている。 ○【13年間のまとめ】相談回数に変動はあるものの、地域の学校と特別支援教育巡回相談員が連携して、特別支援教育を推進することができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 地域の学校や市町村から継続して特別支援学校に依頼があり、特別支援教育において、地域のセンター的な役割としての位置づけは定着している。地域の学校における特別支援教育の体制を整備されるに伴い、巡回相談員の相談内容が多岐にわたってきており、今後も研修等とおした巡回相談員としての専門性の向上に努める。</p>
年度	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
回数	1866	2165	1866	1889	2300	82.1%	2,300												
47	特別支援教育の充実	<p>特別支援教育課 事業名、数値目標実績 通級指導教室による支援の拡大 ○通級指導教室の設置数</p>	<p>事業目的 平成19年の法改正により発達障害等を対象とした通級指導教室開設が可能となったことにより、小・中学校において通常の学級、通級指導教室、特別支援学級という連続性のある学びの場を充実するためにも、通級指導教室設置数の増加を図る。</p> <p>取組状況 平成24年度には、通級指導教室を新たに6教室設置し、合計41教室となった。 ○H24 小学校36教室、中学校4教室、中学校4教室、中学校1教室</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置数</td> <td>26 (小学校2) (中学校3)</td> <td>28 (中学校3)</td> <td>33 (中学校4)</td> <td>35 (中学校4)</td> <td>41 (中学校4)</td> <td>達成</td> <td>中学校にも拡大</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【平成24年度の評価】小・中学校に設置されている全ての通級指導教室に発達障害児に発達障害児を付加して対象を広げ、6月段階で481名の児童生徒が通級による指導を受けている。 ○【15年間のまとめ】中学校4校に設置し、中学校段階の生徒に対する支援が行われるようになった。小・中学校における教室数の増加により、通級している児童生徒は、約1.6倍に増えた。</p> <p>今後の取組及び方向性 通常の学級に在籍し、発達障害等により一部特別な支援が必要な児童生徒にとっても、通常の学級と特別支援学級の中間の位置づけとなる通級指導教室の存在は重要である。今後も市町村と連携をしながら現状を把握し、適正な配置に努める。</p>	年度	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	設置数	26 (小学校2) (中学校3)	28 (中学校3)	33 (中学校4)	35 (中学校4)	41 (中学校4)	達成	中学校にも拡大
年度	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
設置数	26 (小学校2) (中学校3)	28 (中学校3)	33 (中学校4)	35 (中学校4)	41 (中学校4)	達成	中学校にも拡大												

番号	事業名、数値目標実績	事業目的	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
49	特別支援教育の充実	<p>みなと高等学園の整備</p> <p>○みなと高等学園の整備</p>	<p>発達障害のある生徒に対して専門的な教育を行うとともに、センタ一的機能のある幼児児童生徒に対する教育の拠点とするため、「徳島県立みなと高等学園」を整備する。</p> <p>高等学校の発達障害のある生徒の社会的・職業的自立をめざし、商業ビジネス課をはじめとする4学科、定員32名の高等部のみの特別支援学校として平成24年4月に開校した。開校後は、教育課程に基づき、ICT技術の習得や木工・調理実習などを行うとともに、専門家の協力を得て、就労ニーズの高い「ビルメンテナンス」の技術の習得や、事業所の協力を得て現場実習等を計画的に実施するなど、生徒の社会的・職業的自立に向けた授業を行っている。また、発達障害の特性を踏まえ、週に1度のカウンセラーによる授業の実施や、教員が社会人としての手本となる言動を心がけることにより、生徒の心理的安定を図り、不登校等の2次障害を未然に防ぐ、みなと高等学園ならではの取組を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="438 398 523 1303"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>設計</td> <td>設計完了</td> <td>工事</td> <td>工事</td> <td>開校</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の評価】高等学校段階の発達障害のある生徒の社会的・職業的自立をめざし、大学と連携しながら発達障害の特性に応じた授業の実施や、専門家の協力を得て特別支援学校版の「技能検定」を創設・実施するなど、みなと高等学園独自の教育を実施している。また、「徳島県発達障害教育研究会」を設置し、みなと高等学園を各高等学校へ情報提供することにも、全国へ情報発信する。</p> <p>○【5年間のまとめ】</p> <p>「徳島県立みなと高等学園」の開校に向け、建設工事、生徒募集選抜、教育課程など、ハード・ソフトの両面について整備を進めるとともに、本人・保護者等を対象とした学校説明会を開催することなどにより、同校について県民の方に広く周知することができた。開校後の1年間に、国内外県内外から150件、1,700名にのぼる多くの視察等を受け入れた。校舎新築工事や外構工事が完了し、平成24年4月に開校し、目標を達成した。</p> <p>「発達障害者総合支援ゾーン」の教育施設として、みなと高等学園が核となり、高等学校や特別支援学校とのネットワークを形成し情報共有することにより、みなと高等学園で得た知見を高等学校での指導に活かすとともに、特別支援学校のセンター機能を発揮して小・中学校での指導・支援に活かす。また、学校見学会、他県からの視察等の積極的な受け入れなど、みなと高等学園での取組を県内外に情報発信するとともに、保健福祉部局と連携した県民対象の講演会の実施など、他部局と連携し、発達障害教育の全県的な推進を図っていく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	推進	設計	設計完了	工事	工事	開校	達成	開校
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
推進	設計	設計完了	工事	工事	開校	達成	開校												
	特別支援教育課 施設整備課	今後の取組及び方向性																	

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																
50	特別支援教育の充実	特別支援学校の適正配置の推進 ○特別支援学校の全県的な適正配置	<p>事業目的 障害のある幼児児童生徒が、できる限り身近な場所で、障害に応じた専門的な教育を受けることができるよう、特別支援学校の全県的な適正配置を図る。</p> <p>取組状況 県西部において、国府養護学校池田分校を「徳島県立池田支援学校」として本校化すると同時に、「徳島県立池田支援学校美馬分校」を新たに開設した。また、「発達障害者総合支援センター」における教育施設として、平成24年4月に「徳島県立みなと高等学園」を開設した。さらに、盲・聾学校の併置に向け、基本設計・実施設計を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【平成24年度の評価】盲学校・聾学校の政策について、順次整備を行った。 ○【5年間のまとめ】増加している知的障害、重度・重複障害のある幼児児童生徒がより身近な地域で学ぶことができるよう県内全域を視野に入れた適正配置を推進することができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 盲学校・聾学校の政策について、平成26年の新校舎完成をめざし、順次整備を行う。</p> <p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 特別支援学校の全県的な適正配置の一環として、県西部地域の特別支援教育の充実を図るため、国府養護学校池田分校を「池田支援学校」として本校化する。</p> <p>取組状況 平成22年4月、旧・国府養護学校池田分校を「徳島県立池田支援学校」として本校化した。緊急時などにおける学校運営がより円滑になり、教育体制の向上を図ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>開校</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【3年間のまとめ】池田支援学校の教育体制の向上を図ることににより、県西部地域の特別支援教育の充実に寄与することができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 地域の特色を生かし、自立と社会参加に向けて、児童生徒の障害に応じた専門的な教育をおこなうとともに、美馬分校と連携してセンター的機能を発揮し、県西部地域における特別支援教育の一層の充実を図る。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	開校	→	→	達成	開校
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進																												
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	-	-	開校	→	→	達成	開校																												
51	特別支援教育の充実	特別支援教育課 特別支援教育課 特別支援学校の適正配置の推進 ○国府養護学校池田分校の本校化(池田支援学校)	<p>事業目的 特別支援学校の全県的な適正配置の一環として、県西部地域の特別支援教育の充実を図るため、国府養護学校池田分校を「池田支援学校」として本校化する。</p> <p>取組状況 平成22年4月、旧・国府養護学校池田分校を「徳島県立池田支援学校」として本校化した。緊急時などにおける学校運営がより円滑になり、教育体制の向上を図ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>開校</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【3年間のまとめ】池田支援学校の教育体制の向上を図ることににより、県西部地域の特別支援教育の充実に寄与することができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 地域の特色を生かし、自立と社会参加に向けて、児童生徒の障害に応じた専門的な教育をおこなうとともに、美馬分校と連携してセンター的機能を発揮し、県西部地域における特別支援教育の一層の充実を図る。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	開校	→	→	達成	開校																
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	-	-	開校	→	→	達成	開校																												

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
52	特別支援教育の充実 特別支援学校の適正配置の推進 ○池田支援学校美馬分校の開校	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 特別支援学校の全学的な適正配置の一環として、県西中央部地域の特別支援教育の充実を図るため、新たに「池田支援学校美馬分校」を開校する。 平成22年4月、徳島県立美馬商業高等学校に併設する形態で、「徳島県立池田支援学校美馬分校」を開校した。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>開校</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> ○【3年間のまとめ】県西中央部に特別支援学校を設置したことにより、より身近な場で、障害に応じた専門的な教育を受けられることのできる環境を整備するとともに、同校がセンター的機能を発揮することにより、この地域における特別支援教育の充実に寄与することができた。 隣接する美馬商業高等学校との交流を深めるなど、学校の特色を生かし、自立と社会参加に向けて生徒の障害に応じた専門的な教育を行うとともに、池田支援学校と連携してセンター的機能を発揮し、県西部地域における特別支援教育の一層の充実を図る。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	開校	→	→	達成	開校
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
—	—	—	開校	→	→	達成	開校											
53	特別支援教育の充実 特別支援学校等の教員に求められる専門性の向上 ○特別支援学校勤務教諭の「当該学校が対象とする障害種に対応した免許状」の保有率	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 特別支援学校勤務教諭の「当該学校が対象とする障害種に対応した免許状」の保有率を向上させるため、免許状取得に必要な単位を修得できるよう、主に特別支援学校勤務教諭を対象として、徳島県教育委員会教育職員免許法認定講習会を開催する。 「特別支援教育概論」(「視覚障害児の心理・生理・病理」)、「聴覚障害児の心理・生理・病理」, 「肢体不自由児の教育課題・指導法」の4講座(各2日間)を開校した。4講座で、のべ234名の受講者があった。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75.0%</td> <td>75.0%</td> <td>73.0%</td> <td>74.0%</td> <td>72.0%</td> <td>74.0%</td> <td>92.5%</td> <td>80.0%</td> </tr> </tbody> </table> ○【平成24年度の評価】当該認定講習会の開催により、「当該学校が対象とする障害種に対応した免許状」の保有率は74%になった。 ○【5年間のまとめ】保有率は72%から75%で推移している。免許状取得について、本県認定講習会だけでは3年間程度必要なことから、短期間での免許状取得が課題となっている。 平成24年度からは年間4講座を増やし、短期間での免許状取得を希望する教員へは、放送大学等での受講も案内している。また、平成25年度からは、特別支援学校への異動の可能性がある小・中・高等学校教員にも対象を広げて受講を推奨することとで各校の教員の専門性を高め、特別支援学校に勤務する教員の免許状取得率の向上を図る。 ○【第2期計画】5-4-2「教員の資質能力向上」【教諭の「特別支援学校が対象とする障害種に対応した免許状」の保有率】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	75.0%	75.0%	73.0%	74.0%	72.0%	74.0%	92.5%	80.0%
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
75.0%	75.0%	73.0%	74.0%	72.0%	74.0%	92.5%	80.0%											



番号	事業名、数値目標実績	事業目的	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																
54	<p>「学校版環境ISO」の認証取得の推進 ○「学校版環境ISO」及び「新 学校版環境ISO」認証取得校数</p> <p>社会の変化に対応する教育の推進</p>	<p>事業目的 ISO14001などの環境規格を参考に、子どもたちと教職員が自ら目標を立て、成果をチェックする方法で、学校全体でこみの減量やリサイクル、省エネエネルギーなどに継続的に取り組む活動を推進する。</p> <p>取組状況 エコリーダー養成講座を開催し、「新 学校版環境ISO」の認証システムや具体的な活動内容を説明するとともに、効果的な取組方法について研修する講演を行った。 「新 学校版環境ISO」の認証式とともに、実践発表会や講演会を開催した。 「新 学校版環境ISO」認証取得校の取組や、環境教育に関する資料をホームページ等から情報提供することにより、「新 学校版環境ISO」の実践的取組の充実と普及に努め、環境教育を推進した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96</td> <td>140</td> <td>192</td> <td>212</td> <td>231</td> <td>239</td> <td>108.6%</td> <td>220</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 ○【平成24年度の評価】 平成24年度には、125校が「新 学校版環境ISO」の認証取得を行った。平成24年度末での認証取得校は、従来の「学校版環境ISO」と合わせて239校となり、平成24年度末の目標である220校を超えている。 ○【5年間のまとめ】 「新 学校版環境ISO」に移行したことで、家庭や地域との連携や学校独自の環境学習をより一層深めることができている。家庭や地域と一体となった環境保全活動が推進されている。一方、新規申請校だけを見ると減少傾向にある。</p> <p>今後の取組及び方向性 「新 学校版環境ISO」認証取得校の一層の拡大を図るために、「学校版環境ISO」未認証の小・中学校や認証期間を過ぎた学校への積極的な申請を促していく。 「新 学校版環境ISO」における取組の成果を生かし、エネルギーに関する教育を充実させ、生命や自然を大切に、地域の環境を守るために行動できる、郷土を愛するモラルの高い児童・生徒の育成に努める。 ○【第2期計画】2-2-2-3「豊かな心の育成 環境教育の推進」【「新 学校版環境ISO」認証取得校数(累計) (従前の「学校版環境ISO」認証取得校を含む)】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	96	140	192	212	231	239	108.6%	220	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 自然環境を考慮した学校施設の整備については、環境教育に活用できるほか、災害時の非常用電源等としての活用も可能である。 太陽光エネルギーを利用した設備等を設置して、地球自然環境を考慮した整備を行う。</p> <p>事業目的 平成22年度に、徳島科学技術高校、貞工工業高校、海部高校において、太陽光発電装置を設置した。 平成23年度に、「県立学校避難所施設強化・充実事業」を予算化し、その整備の中で、併せて自然環境を利用した設備等の設置を進めていく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>取組状況 ○【平成24年度の評価】太陽光発電装置を富岡東高校に設置し、屋外LED太陽光照明灯を城東高校等9校に設置した。 ○【2年間のまとめ】太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを順次設置した。太陽光発電装置については、東日本大震災以降、各メーカーが技術革新を急ピッチで進めており、その動向もふまえて、計画的に、県立学校に設置していく。</p> <p>今後の取組及び方向性 「県立学校避難所施設強化・充実事業」において、太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを、平成30年度までに順次、各県立学校に設置していく。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	推進	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
96	140	192	212	231	239	108.6%	220																												
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	-	-	-	推進	推進	-	推進																												
55	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>学校を拠点とした環境教育の推進 ○学校施設の屋上緑化やLED照明の活用等、学校のエコスクール化を図ることにより、学校を拠点とした環境教育を推進</p> <p>社会の変化に対応する教育の推進</p>	<p>事業目的 自然環境を考慮した学校施設の整備については、環境教育に活用できるほか、災害時の非常用電源等としての活用も可能である。 太陽光エネルギーを利用した設備等を設置して、地球自然環境を考慮した整備を行う。</p> <p>事業目的 平成22年度に、徳島科学技術高校、貞工工業高校、海部高校において、太陽光発電装置を設置した。 平成23年度に、「県立学校避難所施設強化・充実事業」を予算化し、その整備の中で、併せて自然環境を利用した設備等の設置を進めていく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>取組状況 ○【平成24年度の評価】太陽光発電装置を富岡東高校に設置し、屋外LED太陽光照明灯を城東高校等9校に設置した。 ○【2年間のまとめ】太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを順次設置した。太陽光発電装置については、東日本大震災以降、各メーカーが技術革新を急ピッチで進めており、その動向もふまえて、計画的に、県立学校に設置していく。</p> <p>今後の取組及び方向性 「県立学校避難所施設強化・充実事業」において、太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを、平成30年度までに順次、各県立学校に設置していく。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	推進	推進	-	推進	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 自然環境を考慮した学校施設の整備については、環境教育に活用できるほか、災害時の非常用電源等としての活用も可能である。 太陽光エネルギーを利用した設備等を設置して、地球自然環境を考慮した整備を行う。</p> <p>事業目的 平成22年度に、徳島科学技術高校、貞工工業高校、海部高校において、太陽光発電装置を設置した。 平成23年度に、「県立学校避難所施設強化・充実事業」を予算化し、その整備の中で、併せて自然環境を利用した設備等の設置を進めていく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>取組状況 ○【平成24年度の評価】太陽光発電装置を富岡東高校に設置し、屋外LED太陽光照明灯を城東高校等9校に設置した。 ○【2年間のまとめ】太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを順次設置した。太陽光発電装置については、東日本大震災以降、各メーカーが技術革新を急ピッチで進めており、その動向もふまえて、計画的に、県立学校に設置していく。</p> <p>今後の取組及び方向性 「県立学校避難所施設強化・充実事業」において、太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを、平成30年度までに順次、各県立学校に設置していく。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	推進	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	-	-	-	推進	推進	-	推進																												
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																												
-	-	-	-	推進	推進	-	推進																												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的	取組状況	評価	今後の取組及び方向性																
56	社会の変化に対応する教育の推進	国際理解教育の推進 ○国際的な視野に立って行動できる児童生徒の育成	事業目的 諸外国からの学校訪問受入れや姉妹校交流などを推進することにより、異文化理解を深め、他国を尊重する心を育み、国際的な視野に立って行動できる児童生徒を育成する。	取組状況 「学校を拠点とした地域国際理解教育推進事業」を実施し、海外からの教育旅行受入による直接交流を推進する7校の指定とICT交流を推進する5校の指定を行い、国際理解教育の推進を図った。また韓国が主催する日本教育者招聘行事および日本学生招聘行事により、本県の教員及び高校生を韓国に派遣し、異文化交流を行った。その他、国際連合大学主催の「中国教職員招へいプログラム」を活用し、10月に中国教職員25名を本県に受け入れられる予定であったが、中国側から日本に延期の申し入れがあり、実施に至らなかった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進	○【平成24年度の評価】県内12の学校に、韓国、台湾、中国、シンガポール、ドイツなどから児童生徒及び教育関係者を迎えて、直接交流による国際理解教育の推進を図ることができた。また、ICTを活用した交流の基盤づくりに、県立学校において、英語及び中国語によるホームページを作成して情報発信に取り組んだ。さらには、ドイツ・ニーダーザクセン州の高校と城東高校が、ICTを活用した日独デジタル新聞による交流を実施した。 ○【5年間のまとめ】海外からの教育旅行受入体制を強化することにより、直接交流の機会拡充及び円滑な交流の実現を図ることができた。また、姉妹校交流として継続的に交流する学校も増えている。
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値															
—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進															
57	社会の変化に対応する教育の推進	事業名、数値目標実績 小学校外国語活動の円滑な導入 ○小学校外国語活動をサポートする人材を小学校へ配置するなど、小学校外国語活動の円滑な導入・実施への取組	事業目的 新学習指導要領の円滑な導入に向けて、有用な外部人材を県内の小学校に配置し、教職員の指導力向上のための支援を行う。	取組状況 平成23年度から完全実施された小学校外国語活動の円滑な実施に向け、民間委託により英語が堪能な人材を小学校外国語活動支援講師として、平成23年度は希望のあった20市町へ37人を配置した。これまでに外国語活動は、県内の市町村において取組にばらつきがあったが、平成22年度から実施校は100%になった。 平成24年度は小学校外国語活動支援講師の配置はないが、それまでに支援講師が作成した教材や教員、また支援講師によって行われた授業展開や活動のアドバイスを学校の教員が生かして授業をすすめるようになり、すべての学校で担任を中心とした外国語活動の授業が展開されるようになった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	推進	推進	推進	推進	—	推進	「学校を拠点とした地域国際理解教育推進事業」を継続するとともに、「グローバルチャレンジ支援事業」を開始し、受け入れと派遣をより一層推進し、児童生徒が体験的に学ぶ機会を充実させ、グローバル人材の育成に努めていく。
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値															
—	—	推進	推進	推進	推進	—	推進															
			事業目的 ○【平成24年度の評価】支援講師についてのアプローチでは、高い評価を得ることができた。また、支援講師配置により、A I Tとの打合せや授業研究がしやすくなり、外国語活動について指導者も子どもたちも意識が高くなった。 ○【5年間のまとめ】授業で使う子どもにも指示するための英語表現等について支援講師からの研修が行われた。ただ、教職員の指導力を向上させるためには時間がかかるため、研修等を通して今後取り組んでいく必要がある。		教職員の指導力向上に向け、学級担任である授業者の授業力向上及び県内の指導レベル向上のため、研修等を通して授業で使う英語力の向上や“Hi, friends!”の活用方法等の研修を充実させる。また、小学校外国語活動支援講師等が作成した教材を有効利用し、研修の充実を図ることにより、授業の更なる改善・充実を図る。																	

番号	58	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>情報教育の推進</p> <p>ICTを活用して指導できる教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>66.1%</td> <td>69.0%</td> <td>70.6%</td> <td>73.9%</td> <td>78.5%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	割合	66.1%	69.0%	70.6%	73.9%	78.5%	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>教育の情報化を促進し、ICTを活用して指導できる教員の割合を増加させ、ICTを活用した授業等をおとして、児童生徒の急速な社会の変化に対応できる力を育成する。</p> <p>初任者研修、教職5年次研修、10年経験者研修等の基本研修や希望研修、学校等から要請を受けた委託研修等で、ICTの授業活用、ネットワーク活用、教育用コンテンツ作成、情報モラル等の研修を実施した。また、教員のICT活用指導力向上のため、指導主事が各学校等へ訪問して校内研修支援を行うとともに、学校計画訪問や各種研修機会をとらえて、ICT活用に關する啓発に努め、授業等におけるICT活用を促進した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>66.1%</td> <td>69.0%</td> <td>70.6%</td> <td>73.9%</td> <td>78.5%</td> <td>平成25年9月頃判明</td> <td>—</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の取組状況】平成24年度から授業中にICTを活用して指導することが苦手な教員を対象に、3年間の特別研修「ICT活用指導力養成講座」の開設し、授業等におけるICTの活用促進を図った。</p> <p>○【2年間のまとめ】平成23年度から毎月第3土曜日に「教員のためのサタデーパソコン教室」を実施するとともに、総合教育センターホームページから利用できる徳島独自の教材を生かした教育用コンテンツを充実することにより、授業等におけるICTの活用促進を図った。</p> <p>今後、教員のICT活用をさらに身近なものにしていく必要がある。</p> <p>教員がICTを活用した授業等を行えるように、基礎的、実践的な実習など教員個々の状況に応じたきめ細かな研修等に取組む。</p>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	割合	66.1%	69.0%	70.6%	73.9%	78.5%	平成25年9月頃判明	—	100.0%
年度	H19	H20	H21	H22	H23																												
割合	66.1%	69.0%	70.6%	73.9%	78.5%																												
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																									
割合	66.1%	69.0%	70.6%	73.9%	78.5%	平成25年9月頃判明	—	100.0%																									
番号	59	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>県立学校における学校情報化の推進</p> <p>学校情報化の推進</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>情報化により教職員の業務負担を軽減し、教職員が生徒と向き合う時間等を増加させ、魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>県立学校へ総務事務システムの導入を順次行っている。</p> <p>また、生徒の出入・学籍管理・成績処理等の基本的な業務を共通システムとして行う「学校支援システム」の開発を行い、一部試行を開始している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>H24新規</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の取組状況】総務事務システムの導入及び学校支援システムの開発を行った。</p> <p>○【2年間のまとめ】平成23年度から県立学校へ総務事務システムの導入を順次行っているが、旅費システムについては旅費支給方法の見直しを行うことになり、開始時期を平成26年度に延期した。</p> <p>また、学校支援システムについては平成24年度に開発を行ったが、今後は学校現場の加重な負担とならないよう各高校における既存システム等からの円滑なシステム移行及びシステムの安定運用が必要になる。</p> <p>総務事務システム及び学校支援システムの運用に向け、職作研修の実施、試行期間を設けるなど教職員の業務負担の軽減に向けてシステムの円滑な導入に取り組む。</p>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	割合	—	—	—	—	—	推進	—	H24新規												
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																									
割合	—	—	—	—	—	推進	—	H24新規																									